（４）礼法

本調査では、礼法への興味関心や経験の有無等の把握を目的として２万人にウェブアンケート調査を実施した。

アンケートでは、礼法を稽古場等で習ったような経験者、イベント等で体験した体験者、全く経験がない未経験者がいることが想定されることから、礼法の経験・体験の有無について回答する設問を設けた。その上で、下記の表のように経験の深度に応じた専用の設問群を設けることで、各回答者の礼法への興味関心の有無などの把握を行った。

■分野設問の項目

「１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問	ＤＱ１：礼法を習い始めたきっかけ ＤＱ２：礼法を始めた当初の習い方 ＤＱ２補問：当初の習い方を選んだ理由 ＤＱ３：現在の継続状況 ＤＱ３補問１：礼法を続けている理由 ＤＱ３補問２：礼法から離れたきっかけや理由 ＤＱ４：礼法を続けている（続けていた）年数 ＤＱ５：礼法に関する活動内容 ＤＱ６：礼法に関する活動頻度 ＤＱ７：礼法に関する月額費用 ＤＱ８：礼法に関する興味関心や魅力
「２．学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある」と回答した者への設問	ＤＱ９：礼法を体験したきっかけ ＤＱ10：礼法を体験した場 ＤＱ11：礼法を習いやすい状況 ＤＱ12：礼法に支払える月額費用 ＤＱ13：礼法を習っていない理由 ＤＱ14：礼法に対する印象やイメージ ＤＱ15：礼法に関する興味関心や魅力
「３．今まで経験したことはない」と回答した者への設問	ＤＱ16：参加してみたい礼法の体験内容 ＤＱ17：参加しやすい礼法の体験条件 ＤＱ18：礼法を体験したことがない理由 ＤＱ19：礼法に対する印象やイメージ ＤＱ20：礼法に関する興味関心や魅力

①単純集計の結果について

■全調査対象者への設問

礼法を経験した者、あるいは全く触れたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、礼法の「経験」にも深度があり、いわゆる稽古場や教室等で習った経験がある者や、稽古場や教室等で教える立場にいる者、あるいは、イベント等で礼法の体験をしたことがある者等がいると想定される。経験の有無を大別するならば、教室等で習ったあるいは教える立場にいる者、イベント等で体験をした者、そして経験をしたことがない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、礼法の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

礼法の経験の有無

礼法を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」（以下、「経験あり」）比率は 2.6%（512 人）、「学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある」（以下、「参加体験あり」）17.1%（3,413 人）、「今まで経験したことはない」（以下「未経験」）80.4%（16,075 人）となった。

男女別では、女性の「経験あり」が 3.3%、「参加体験あり」が 20.8%と、男性より高い。

年齢別では、「経験あり」「参加体験あり」と回答した者は 18～20 代と 70 代以上で全体平均より高く、30～60 代は全体平均より低い回答比率である。

(%)

		n=	習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）	学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある	今まで経験したことはない
全 体		20,000	2.6	17.1	80.4
性別	男	9,645	1.8	13.2	85.0
	女	10,202	3.3	20.8	75.9
	それ以外／答えたくない	153	2.6	11.1	86.3
年齢	18～20代	2,781	3.8	18.6	77.6
	30代	2,691	3.0	14.6	82.4
	40代	3,496	1.9	13.6	84.5
	50代	3,178	1.5	13.8	84.7
	60代	3,002	2.1	16.8	81.2
	70代以上	4,852	3.1	22.4	74.6

集計表　ＦＱ４：礼法の経験の有無

■礼法を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問（ＤＱ１～ＤＱ８）

本設問群では、礼法を経験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会で礼法を習うようになったのか、興味関心を持っているのか等、経験の実態を把握するためのアンケートを実施した。

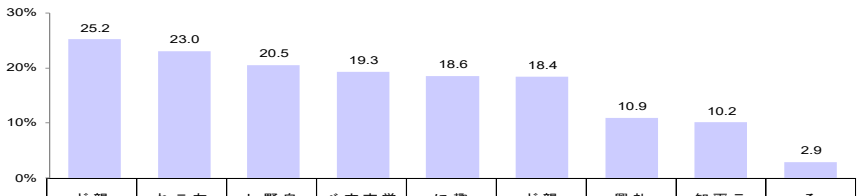
礼法を習い始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」の 25.2%で、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」23.0%、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」20.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」(33.1%)、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」(28.0%)、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」(15.4%）の回答比率が全体平均より高い。

次に年齢別で見ると、若年層ほど「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」という回答比率が高く、高齢層では「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」という選択肢の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	趣味や教養として、礼法に興味関心があった	親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	その他
全 体		512	25.2	23.0	20.5	19.3	18.6	18.4	10.9	10.2	2.9
性別	男	175	33.1	24.6	16.0	21.7	14.3	28.0	13.1	15.4	1.1
	女	333	20.7	22.5	22.8	18.0	20.7	13.5	9.9	7.5	3.9
	それ以外／答えたくない	4	50.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-
年齢	18～20代	106	28.3	30.2	14.2	23.6	12.3	29.2	12.3	21.7	0.9
	30代	82	32.9	35.4	18.3	23.2	15.9	18.3	12.2	14.6	1.2
	40代	67	23.9	16.4	16.4	25.4	17.9	19.4	9.0	11.9	1.5
	50代	47	29.8	21.3	14.9	12.8	14.9	12.8	6.4	-	-
	60代	62	21.0	17.7	27.4	12.9	33.9	14.5	11.3	6.5	4.8
	70代以上	148	19.6	16.9	27.0	16.2	19.6	13.5	11.5	3.4	6.1
経験年数	1年未満	128	24.2	14.8	17.2	13.3	14.8	6.3	10.9	4.7	6.3
	1～3年未満	120	19.2	30.8	12.5	20.0	14.2	18.3	10.8	6.7	2.5
	3～5年未満	98	22.4	28.6	15.3	24.5	22.4	24.5	9.2	16.3	1.0
	5～10年未満	61	26.2	26.2	19.7	23.0	31.1	24.6	11.5	16.4	1.6
	10～20年未満	50	26.0	16.0	36.0	22.0	14.0	18.0	8.0	12.0	4.0
	20年以上	55	43.6	18.2	41.8	16.4	20.0	29.1	16.4	10.9	-

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ１：礼法を習い始めたきっかけ

（その他の内容）仕事の関係で、親に強制的に習わされた、秘書検定の勉強で関連があったから

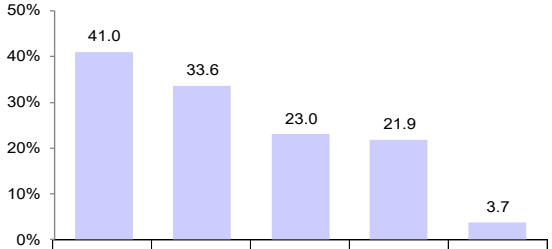
礼法を始めた当初の習い方

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に習っていた」の 41.0%で、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」33.6%、「稽古場や教室で習っていた」23.0%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」（42.3%）の回答比率が高い。

年齢別では、10～30 代で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」の回答比率が全体平均より高く、50 代以上は全体平均より低い。その一方で 40～50 代では「稽古場や教室で習っていた」の回答比率が高い傾向にある。

経験年数別で見ると、20 年以上と回答した者では、「家族や知人等、身近な人に習っていた」（60.0%）、「稽古場や教室で習っていた」（38.2%）の回答比率が高い傾向にある。一方、１～５年未満と回答した者は、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」の回答比率が全体平均より高い傾向にあり、年齢や経験年数によって、習い始めた方法に違いが見られる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	家族や知人等、身近な人に習っていた	学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた	稽古場や教室で習っていた	カルチャーセンターの講座で習っていた	その他
全体		512	41.0	33.6	23.0	21.9	3.7
性別	男	175	43.4	42.3	22.9	22.3	1.7
	女	333	39.9	28.5	23.4	21.9	4.8
	それ以外／答えたくない	4	25.0	75.0	-	-	-
年齢	18～20代	106	43.4	49.1	17.0	25.5	0.9
	30代	82	46.3	41.5	19.5	26.8	-
	40代	67	28.4	37.3	29.9	28.4	1.5
	50代	47	36.2	25.5	34.0	14.9	2.1
	60代	62	40.3	22.6	21.0	25.8	3.2
	70代以上	148	43.9	23.6	23.6	14.2	9.5
経験年数	1年未満	128	45.3	17.2	14.8	20.3	9.4
	1～3年未満	120	39.2	48.3	14.2	19.2	-
	3～5年未満	98	34.7	44.9	22.4	23.5	1.0
	5～10年未満	61	31.1	34.4	32.8	24.6	3.3
	10～20年未満	50	38.0	26.0	38.0	30.0	6.0
	20年以上	55	60.0	25.5	38.2	18.2	1.8

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ２：礼法を始めた当初の習い方

（その他の内容）テレビの講習会、生活の中で知った、学校の授業

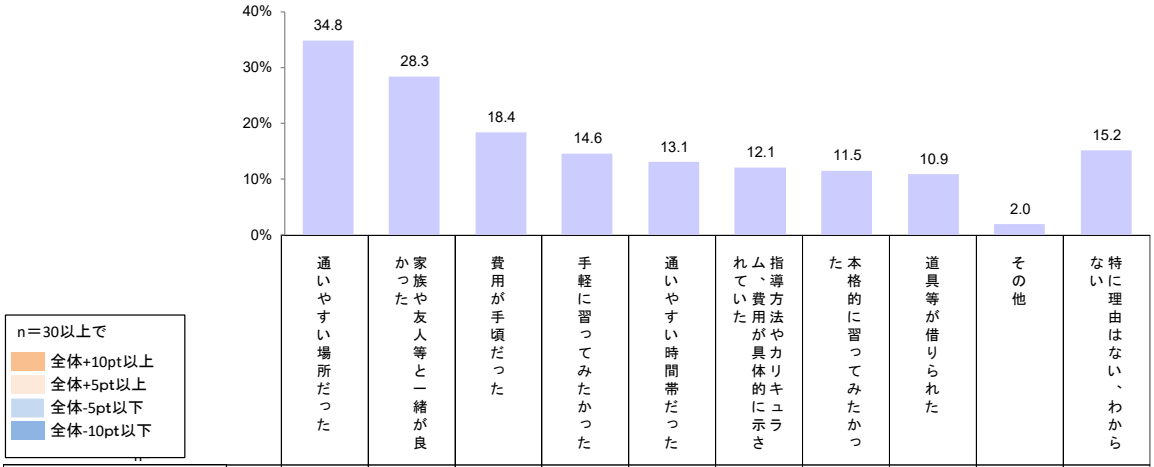
当初の習い方を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所だった」の 34.8%で、次いで「家族や友人等と一緒が良かった」28.3%、「費用が手頃だった」18.4%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「家族や友人等と一緒が良かった」(35.4%）の回答比率が高く、「手軽に習ってみたかった」（男性 9.1%）の回答比率が低い傾向にある。

また、年齢別では、10～30 代で「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた」の回答比率が高い傾向にあるほか、50～60 代で「通いやすい場所だった」、60 代以上で「手軽に習ってみたかった」の回答比率が高くなっている。

経験年数別で見ると、20 年以上と回答した者は、「家族や友人等と一緒が良かった」(40.0%)「通いやすい時間帯だった」(27.3%）の回答比率が高い。また、５～10 年未満でも「通いやすい時間帯だった」(26.2%）の回答比率が高いほか、その他の選択肢でも全体平均を上回る項目が多い傾向が見られた。



			通いやすい場所だった	家族や友人等と一緒が良かった	費用が手頃だった	手軽に習ってみたかった	通いやすい時間帯だった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	本格的に習ってみたかった	道具等が借りられた	その他	特に理由はない、わからない
全 体		512	34.8	28.3	18.4	14.6	13.1	12.1	11.5	10.9	2.0	15.2
性別	男	175	34.3	35.4	21.1	9.1	15.4	16.0	13.7	15.4	0.6	11.4
	女	333	35.1	24.6	17.1	17.4	11.7	10.2	10.5	8.7	2.4	17.4
	それ以外／答えたくない	4	25.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-
年齢	18～20代	106	35.8	32.1	21.7	8.5	16.0	22.6	12.3	16.0	1.9	7.5
	30代	82	35.4	35.4	18.3	9.8	13.4	18.3	11.0	17.1	2.4	7.3
	40代	67	37.3	19.4	22.4	11.9	13.4	11.9	10.4	11.9	3.0	11.9
	50代	47	40.4	23.4	17.0	10.6	10.6	10.6	6.4	10.6	2.1	12.8
	60代	62	41.9	25.8	16.1	24.2	17.7	4.8	9.7	4.8	-	22.6
	70代以上	148	27.7	28.4	15.5	20.3	9.5	4.7	14.2	6.1	2.0	24.3
経験年数	1年未満	128	24.2	32.8	7.8	13.3	4.7	5.5	4.7	4.7	2.3	21.1
	1～3年未満	120	38.3	30.0	21.7	14.2	12.5	11.7	9.2	8.3	2.5	10.0
	3～5年未満	98	40.8	19.4	21.4	11.2	10.2	14.3	18.4	18.4	1.0	11.2
	5～10年未満	61	41.0	14.8	27.9	13.1	26.2	18.0	14.8	18.0	3.3	14.8
	10～20年未満	50	34.0	34.0	16.0	20.0	10.0	18.0	16.0	10.0	2.0	14.0
	20年以上	55	34.5	40.0	21.8	21.8	27.3	12.7	12.7	10.9	-	21.8

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ２補問：当初の習い方を選んだ理由

（その他の内容）授業の一環・授業の必須科目だった、指導者に魅力を感じたから、空手を習っていて空手で礼法はとても関係しているから、教室のカリキュラムに含まれていた

現在の継続状況

継続状況については、「続けている」38.5%（197 人）、「続けていない」61.5%（315 人）と、続けていないとの回答比率が高いことが分かる。

男女別で見た場合、男性で「続けている」が 62.3%と高く、女性で 25.8%と低い。

次に年齢別で見ると、年代が上っていくに従って、継続率が下がっていく傾向が見られる。

経験年数別では、１年未満（78.9%）、１～３年未満（69.2%）の者で「続けていない」の比率が全体平均の回答比率を上回っている。

(%)

		n＝	続けている	続けていない
全 体		512	38.5	61.5
性別	男	175	62.3	37.7
	女	333	25.8	74.2
	それ以外／答えたくない	4	50.0	50.0
年齢	18～20代	106	65.1	34.9
	30代	82	58.5	41.5
	40代	67	46.3	53.7
	50代	47	34.0	66.0
	60代	62	12.9	87.1
	70代以上	148	16.9	83.1
経験年数	１年未満	128	21.1	78.9
	１～３年未満	120	30.8	69.2
	３～５年未満	98	50.0	50.0
	５～１０年未満	61	45.9	54.1
	１０～２０年未満	50	48.0	52.0
	２０年以上	55	58.2	41.8

※n=30未満は参考値のため灰色

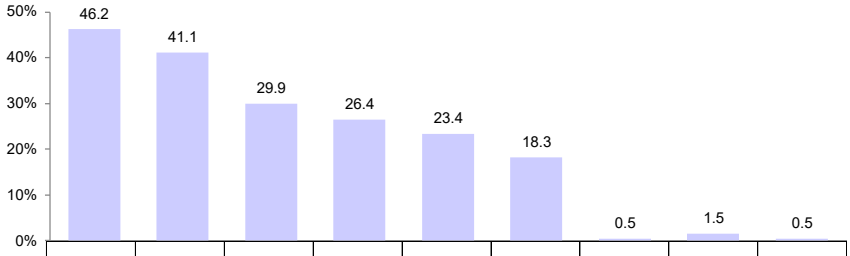
集計表　ＤＱ３：現在の継続状況

礼法を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の文化だから」の 46.2%で、次いで「指導者や教授者として活動したい（している）」41.1%、「一緒に楽しむ仲間がいる」29.9%と続く。

全体平均の回答比率と、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別では 18～20 代で「指導者や教授者として活動したい（している）」（55.1%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（40.6%）の回答比率が高い傾向にあるほか、30 代で「相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」（37.5%）の回答比率が高い。一方、40 代は 18～20 代で回答比率が高かった項目の回答比率が低いことが分かる。

また、経験年数別で見た場合、20 年以上と回答した者は、「日本の文化だから」（75.0%）、「相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」（37.5%）、「礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる」（50.0%）、「習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった」（40.6%）の回答比率が高く、経験してきた年数に比例して選ぶ選択肢が増えているものと考えられる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	日本の文化だから	指導者や教授者として活動したい（している）	一緒に楽しむ仲間がいる	相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい	礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる	習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった	その他	特に理由はない	上記の中で当てはまるものはない
全体		197	46.2	41.1	29.9	26.4	23.4	18.3	0.5	1.5	0.5
性別	男	109	45.0	43.1	31.2	29.4	22.9	17.4	-	1.8	0.9
	女	86	48.8	37.2	29.1	23.3	24.4	19.8	1.2	1.2	-
	それ以外／答えたくない	2	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	69	37.7	55.1	40.6	23.2	21.7	13.0	-	1.4	-
	30代	48	54.2	43.8	29.2	37.5	18.8	18.8	-	-	-
	40代	31	48.4	29.0	16.1	29.0	25.8	16.1	-	-	3.2
	50代	16	50.0	37.5	12.5	6.3	18.8	12.5	6.3	-	-
	60代	8	87.5	25.0	12.5	37.5	50.0	62.5	-	-	-
	70代以上	25	36.0	20.0	36.0	20.0	28.0	24.0	-	8.0	-
経験年数	1年未満	27	18.5	74.1	3.7	7.4	11.1	3.7	-	-	-
	1～3年未満	37	48.6	48.6	24.3	16.2	5.4	8.1	-	-	-
	3～5年未満	49	49.0	28.6	40.8	30.6	18.4	8.2	2.0	-	-
	5～10年未満	28	46.4	35.7	39.3	39.3	32.1	21.4	-	-	-
	10～20年未満	24	29.2	29.2	41.7	25.0	29.2	37.5	-	4.2	-
	20年以上	32	75.0	37.5	25.0	37.5	50.0	40.6	-	6.3	3.1

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ３補問１：礼法を続けている理由

（その他の内容）人としてより良く生きる為

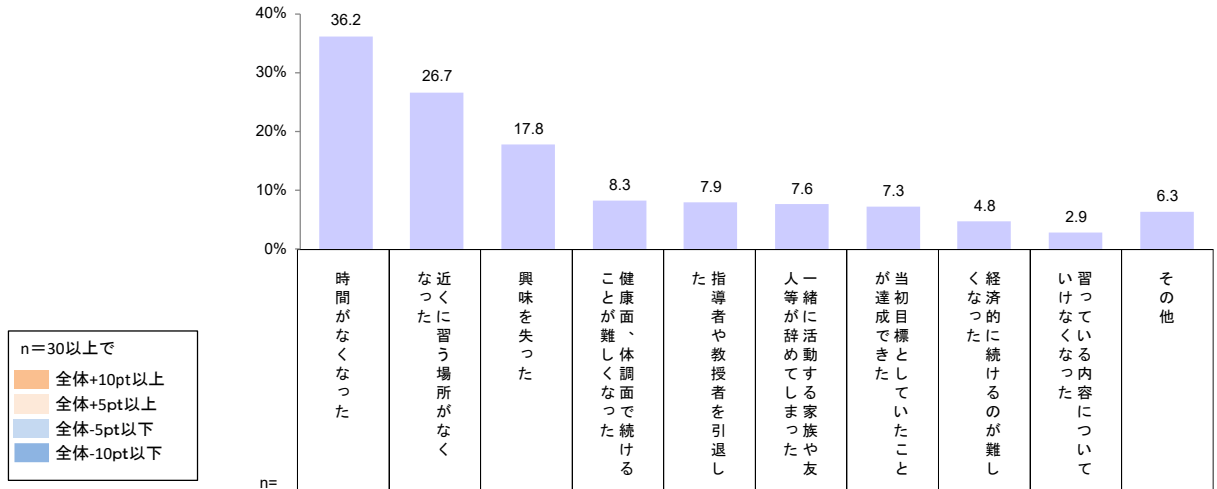
礼法から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「時間がなくなった」の 36.2%で、次いで「近くに習う場所がなくなった」26.7%、「興味を失った」17.8%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「近くに習う場所がなくなった」(21.2%)、「当初目標としていたことが達成できた」(1.5%)の回答比率が低い。

次に年齢別に見た場合、10～50 代で「時間がなくなった」の回答比率が全体平均より高く、50～60 代では「近くに習う場所がなくなった」の回答比率が高い。

経験年数別では、３～10 年未満と回答した者で、「近くに習う場所がなくなった」の回答比率が高い。また、５～10 年未満と回答した者の場合、「健康面、体調面で続けることが難しくなった」(27.3%)、「近くに習う場所がなくなった」(33.3%) の回答比率が高く、「時間がなくなった」(30.3%) の回答比率は低い。



		n=	時間がなくなった	近くに習う場所がなくなった	興味を失った	健康面、体調面で続けることが難しくなった	指導者や教授者を引退した	一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった	当初目標としていたことが達成できた	経済的に続けるのが難しくなった	習っている内容についていけなくなった	その他
全 体		315	36.2	26.7	17.8	8.3	7.9	7.6	7.3	4.8	2.9	6.3
性別	男	66	37.9	21.2	21.2	10.6	10.6	10.6	1.5	3.0	4.5	3.0
	女	247	35.6	27.9	17.0	7.7	7.3	6.9	8.9	5.3	2.4	7.3
	それ以外／答えたくない	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	37	56.8	21.6	13.5	8.1	5.4	8.1	8.1	5.4	2.7	5.4
	30代	34	50.0	23.5	11.8	2.9	5.9	5.9	2.9	5.9	2.9	2.9
	40代	36	44.4	16.7	16.7	16.7	5.6	-	2.8	8.3	8.3	-
	50代	31	41.9	35.5	16.1	3.2	6.5	6.5	6.5	12.9	6.5	3.2
	60代	54	31.5	37.0	16.7	7.4	9.3	3.7	7.4	3.7	3.7	5.6
	70代以上	123	24.4	25.2	22.0	8.9	9.8	12.2	9.8	1.6	-	10.6
経験年数	1年未満	101	38.6	21.8	21.8	5.9	3.0	4.0	3.0	5.0	4.0	9.9
	1～3年未満	83	45.8	30.1	19.3	8.4	6.0	7.2	4.8	4.8	1.2	4.8
	3～5年未満	49	32.7	36.7	16.3	2.0	10.2	8.2	14.3	4.1	4.1	4.1
	5～10年未満	33	30.3	33.3	15.2	27.3	9.1	12.1	9.1	9.1	-	-
	10～20年未満	26	15.4	23.1	7.7	11.5	19.2	19.2	11.5	-	3.8	11.5
	20年以上	23	30.4	8.7	13.0	0.0	17.4	4.3	13.0	4.3	4.3	4.3

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ３補問２：礼法から離れたきっかけや理由

（その他の内容）学校を卒業した、必要性が無くなった、幼い頃の習い事だったので

礼法を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「１年未満」の 25.0%で、次いで「１～３年未満」23.4%、「３～５年未満」19.1%と続く。全体平均で３年以上続けている（いた）人の比率は 51.6%となっている。

男女別では、３年以上の継続者が、男性で 62.3%（175 人中 109 人）、女性で 46.5%（333 人中 155 人）となっており、男性の方が長く続けている（いた）人の割合が高いことが分かる。

(%)

		n＝	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	3年以上
全 体		512	25.0	23.4	19.1	11.9	9.8	10.7	51.6
性別	男	175	20.6	17.1	25.1	14.3	13.7	9.1	62.3
	女	333	27.3	26.1	16.2	10.8	7.8	11.7	46.5
	それ以外／答えたくない	4	25.0	75.0					-
年齢	18～20代	106	23.6	27.4	22.6	15.1	9.4	1.9	49.1
	30代	82	20.7	25.6	25.6	12.2	6.1	9.8	53.7
	40代	67	13.4	26.9	20.9	13.4	11.9	13.4	59.7
	50代	47	19.1	25.5	10.6	21.3	19.1	4.3	55.3
	60代	62	41.9	19.4	11.3	4.8	3.2	19.4	38.7
	70代以上	148	28.4	18.9	18.2	8.8	10.8	14.9	52.7

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表　ＤＱ４：礼法を続けている（続けていた）年数

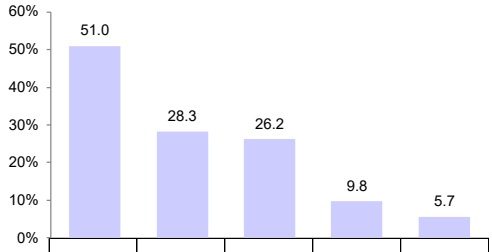
礼法に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「教室や稽古場で習っている（いた）」の 51.0%で、次いで「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」28.3%、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」26.2%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（35.4%）の回答比率が高い。

次に、年齢別では 10～40 代では「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」の回答比率が高く、また、18～20 代では、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」の回答比率も高い。一方、50～60 代では「教室や稽古場で習っている（いた）」の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、経験年数が５年以上と回答した者で「教室や稽古場で習っている（いた）」の回答比率が、１～５年未満では「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」の回答比率が高い傾向が見える。また、10 年以上と回答した者では、「指導者や教授者として教えている（いた）」の回答比率も高いことが分かる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	教室や稽古場で習っている（いた）	カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）	学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）	指導者や教授者として教えている（いた）	その他
全 体		512	51.0	28.3	26.2	9.8	5.7
性別	男	175	53.1	35.4	28.6	13.1	2.9
	女	333	50.5	24.3	24.6	8.1	7.2
	それ以外／答えたくない	4	-	50.0	50.0	-	-
年齢	18～20代	106	43.4	40.6	39.6	11.3	1.9
	30代	82	48.8	37.8	29.3	18.3	-
	40代	67	47.8	34.3	25.4	10.4	3.0
	50代	47	66.0	17.0	17.0	6.4	4.3
	60代	62	58.1	21.0	21.0	4.8	4.8
	70代以上	148	51.4	18.2	20.3	6.8	13.5
経験年数	1年未満	128	54.7	18.0	18.8	2.3	9.4
	1～3年未満	120	38.3	35.8	27.5	5.8	5.8
	3～5年未満	98	43.9	41.8	32.7	7.1	2.0
	5～10年未満	61	63.9	29.5	26.2	13.1	1.6
	10～20年未満	50	58.0	22.0	26.0	16.0	8.0
	20年以上	55	61.8	16.4	29.1	30.9	5.5

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ５：礼法に関する活動内容

（その他の内容）親から教わっていた、日常生活の一部（普段の生活の中で実践している）

礼法に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「週１回程度」の 21.3%で、次いで「月数回程度」17.0%、「年１回程度」16.8%と続く。週１回以上活動している（いた）比率は 48.2%（512 人中 247 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で週１回以上活動している（いた）比率が 60.0%（175 人中 105 人）、女性で 42.0%（333 人中 140 人）となっている。

年齢別では、年齢が高くなるほど週１回以上活動している（いた）比率が低くなっている。

また、経験年数別では、経験年数が１～５年未満の者で「週１回程度」の回答比率が高い。

(%)

		n＝	ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度	週1回以上
全 体		512	12.9	14.1	21.3	17.0	10.9	7.0	16.8	48.2
性別	男	175	20.0	22.9	17.1	22.3	4.0	9.1	4.6	60.0
	女	333	9.0	9.3	23.7	14.4	14.4	6.0	23.1	42.0
	それ以外／答えたくない	4	25.0	25.0	25.0	25.0				50.0
年齢	18～20代	106	23.6	26.4	17.9	16.0	4.7	5.7	5.7	67.9
	30代	82	17.1	25.6	14.6	20.7	9.8	4.9	7.3	57.3
	40代	67	14.9	13.4	20.9	17.9	10.4	7.5	14.9	49.3
	50代	47	2.1	12.8	34.0	17.0	14.9	4.3	14.9	48.9
	60代	62	8.1	3.2	25.8	17.7	21.0	4.8	19.4	37.1
	70代以上	148	7.4	4.1	21.6	14.9	10.8	10.8	30.4	33.1
経験年数	１年未満	128	19.5	3.9	12.5	12.5	13.3	3.9	34.4	35.9
	１～３年未満	120	8.3	24.2	30.0	12.5	10.8	3.3	10.8	62.5
	３～５年未満	98	7.1	21.4	24.5	22.4	7.1	8.2	9.2	53.1
	５～１０年未満	61	9.8	13.1	26.2	27.9	11.5	6.6	4.9	49.2
	１０～２０年未満	50	14.0	14.0	12.0	16.0	10.0	18.0	16.0	40.0
	２０年以上	55	20.0	3.6	20.0	16.4	12.7	10.9	16.4	43.6

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表　ＤＱ６：礼法に関する活動頻度

礼法に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは月額「5,000 円未満」の 51.2%で、次いで「5,000 円以上～10,000 円未満」18.2%、「10,000 円以上～15,000 円未満」10.0%と続く。なお、月額１万円以上支出している（いた）と回答した比率は 30.7%（512 人中 157 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較した場合、まず男女別では、男性で月額１万円以上支出している（いた）割合が 45.7%（175 人中 80 人）と、女性の 22.8%（333 人中 76 人）より高い。

また、年齢別では、18～20 代の年齢層で、月額１万円以上支出している（いた）割合（53.8%）が高いことが分かる。

経験年数別では、経験年数が１年未満の者は月額「5,000 円未満」（77.3%）の回答比率が高い。

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計10,000円以上
全 体		512	51.2	18.2	10.0	6.4	3.5	3.7	1.2	1.2	1.0	1.8	2.0	30.7
性別	男	175	38.9	15.4	13.7	12.0	5.1	5.1	2.3	2.3	1.1	1.7	2.3	45.7
	女	333	58.3	18.9	7.8	3.6	2.7	3.0	0.6	0.6	0.9	1.8	1.8	22.8
	それ以外／答えたくない	4	-	75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0
年齢	18～20代	106	29.2	17.0	19.8	8.5	9.4	1.9	2.8	0.9	2.8	4.7	2.8	53.8
	30代	82	41.5	18.3	6.1	12.2	4.9	8.5	2.4	2.4	1.2	-	2.4	40.2
	40代	67	41.8	17.9	11.9	10.4	3.0	7.5	1.5	-	1.5	3.0	1.5	40.3
	50代	47	44.7	27.7	8.5	4.3	4.3	2.1	-	2.1	-	4.3	2.1	27.7
	60代	62	69.4	17.7	3.2	3.2	-	-	-	1.6	-	-	4.8	12.9
	70代以上	148	70.9	16.2	7.4	2.0	-	2.7	-	0.7	-	-	-	12.8
経験年数	1年未満	128	77.3	10.9	2.3	5.5	0.8	0.8	-	1.6	-	-	0.8	11.7
	1～3年未満	120	45.8	28.3	11.7	3.3	3.3	3.3	1.7	0.8	0.8	0.8	-	25.8
	3～5年未満	98	30.6	15.3	17.3	12.2	7.1	9.2	3.1	1.0	3.1	1.0	-	54.1
	5～10年未満	61	42.6	21.3	9.8	13.1	6.6	1.6	-	-	1.6	1.6	1.6	36.1
	10～20年未満	50	38.0	20.0	16.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-	8.0	6.0	42.0
	20年以上	55	60.0	12.7	5.5	-	1.8	5.5	-	1.8	-	3.6	9.1	27.3

※n=30未満は参考値のため灰色

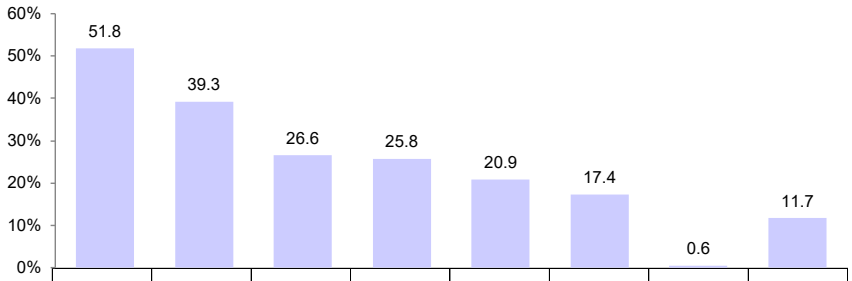
集計表　ＤＱ７：礼法に関する月額費用

礼法に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」の51.8%で、次いで「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」39.3%、「礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等」26.6%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等」(32.6%）の回答比率が高い傾向にある。

経験年数別では、経験年数５年以上の者で「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の回答比率が高い。また、20 年以上と回答した者では、「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(65.5%）も含めて、いずれの選択肢の回答比率も高いことから、経験してきた長さにより関心が異なる傾向がうかがえる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる	相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作	礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等	集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる	礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		512	51.8	39.3	26.6	25.8	20.9	17.4	0.6	11.7
性別	男	175	52.0	41.7	32.6	28.0	21.7	15.4	0.6	4.6
	女	333	51.1	38.1	23.7	24.3	20.4	18.6	0.6	15.6
	それ以外／答えたくない	4	100.0	25.0	-	50.0	25.0	-	-	-
年齢	18～20代	106	53.8	39.6	30.2	29.2	16.0	16.0	-	1.9
	30代	82	53.7	36.6	34.1	32.9	17.1	12.2	1.2	4.9
	40代	67	40.3	43.3	20.9	19.4	23.9	11.9	-	16.4
	50代	47	55.3	31.9	19.1	27.7	23.4	23.4	2.1	8.5
	60代	62	51.6	33.9	24.2	21.0	27.4	27.4	-	19.4
	70代以上	148	53.4	43.2	25.7	23.6	21.6	17.6	0.7	18.2
経験年数	1年未満	128	52.3	24.2	14.8	11.7	11.7	10.9	-	19.5
	1～3年未満	120	55.8	37.5	19.2	25.8	18.3	12.5	0.8	10.0
	3～5年未満	98	42.9	46.9	36.7	28.6	15.3	11.2	1.0	5.1
	5～10年未満	61	45.9	57.4	44.3	42.6	29.5	26.2	-	4.9
	10～20年未満	50	50.0	40.0	24.0	30.0	34.0	28.0	2.0	12.0
	20年以上	55	65.5	43.6	34.5	30.9	36.4	34.5	-	16.4

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ８：礼法に関する興味関心や魅力

（その他の内容）自分を高められる

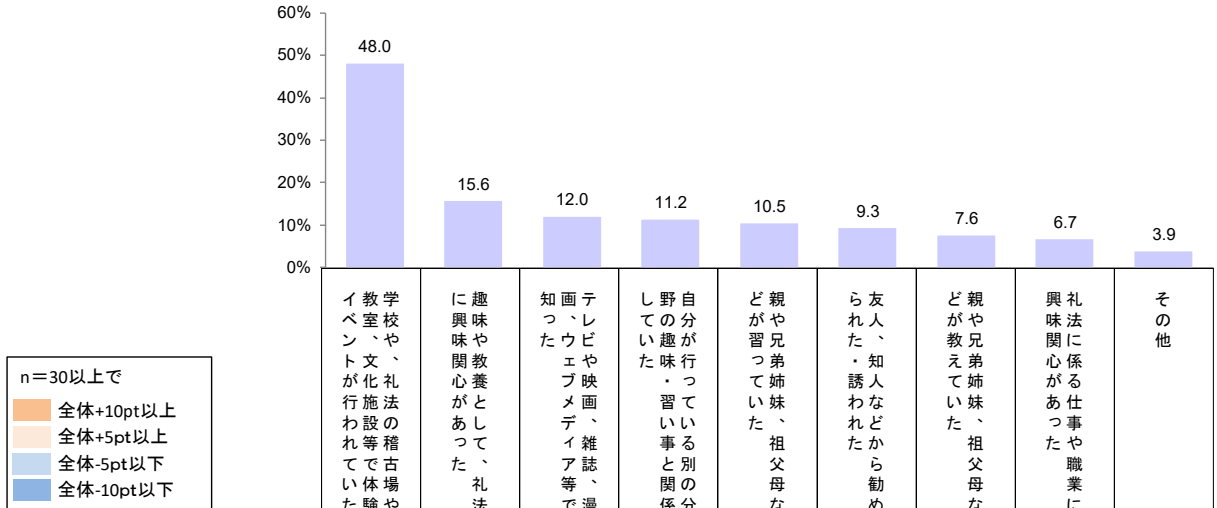
■礼法を「学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある」と回答した者への設問（ＤＱ９～ＤＱ15）

本設問では、礼法をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会で礼法を体験したのか、また、どの程度礼法に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

礼法を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の 48.0％で、次いで「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」15.6％、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」12.0％と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、70 代以上では「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」の回答比率が高く、対照的に 18～20 代では回答比率が低い傾向にある。



		n=	学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた	趣味や教養として、礼法に興味関心があった	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	友人、知人などから勧められた・誘われた	親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	その他
全 体		3,413	48.0	15.6	12.0	11.2	10.5	9.3	7.6	6.7	3.9
性別	男	1,269	44.4	15.1	14.4	10.3	12.1	10.9	10.4	8.9	4.1
	女	2,127	50.2	15.9	10.6	11.7	9.5	8.2	6.0	5.4	3.7
	それ以外／答えたくない	17	29.4	17.6	5.9	23.5	-	17.6	5.9	-	5.9
年齢	18～20代	516	51.9	8.5	12.4	12.0	9.3	9.1	10.5	5.4	1.7
	30代	392	49.2	12.5	13.3	8.7	11.5	11.0	11.0	8.7	3.8
	40代	476	51.7	13.2	12.2	7.8	10.7	9.5	8.2	5.9	1.3
	50代	440	52.3	13.6	13.9	11.4	8.9	8.6	6.4	9.3	3.6
	60代	503	48.1	15.5	11.7	11.7	9.9	8.2	5.6	6.6	5.0
	70代以上	1,086	42.2	22.0	10.7	13.0	11.4	9.4	6.3	5.9	5.6

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

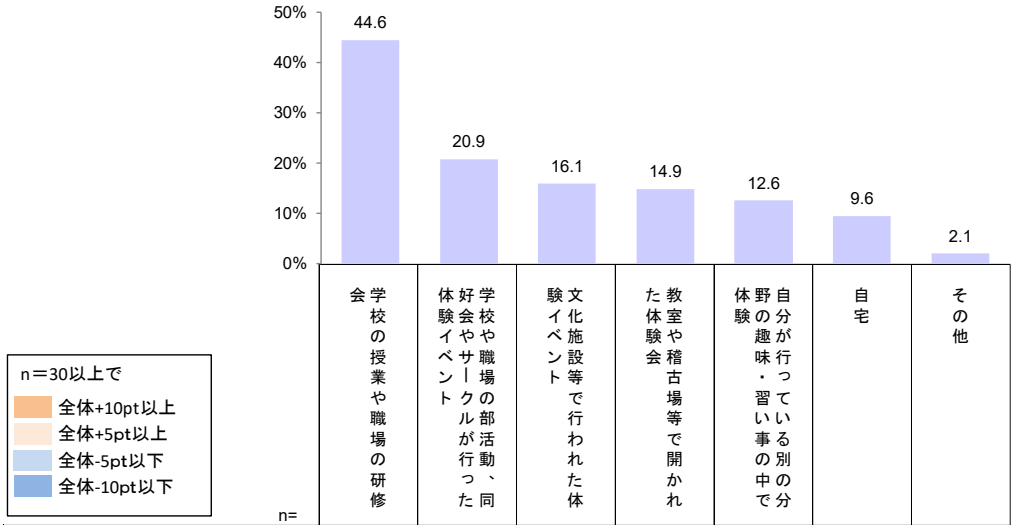
集計表　ＤＱ９：礼法を体験したきっかけ

（その他の内容）会社での研修の一環、学校の授業で習った、仕事で、ビジネスマナーとして

礼法を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校の授業や職場の研修会」の 44.6%で、次いで「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」20.9%、「文化施設等で行われた体験イベント」16.1%となる。

全体平均と年齢別の回答比率とを比較すると、30～50 代では「学校の授業や職場の研修会」の回答比率が全体平均より高い一方、70 代以上では大きく下回っている。



		n=	学校の授業や職場の研修会	学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント	文化施設等で行われた体験イベント	教室や稽古場等で開かれた体験会	自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	自宅	その他
全 体		3,413	44.6	20.9	16.1	14.9	12.6	9.6	2.1
性別	男	1,269	44.8	24.1	18.9	12.0	10.6	11.7	2.5
	女	2,127	44.4	18.9	14.5	16.8	13.7	8.4	1.9
	それ以外／答えたくない	17	47.1	17.6	5.9	-	29.4	5.9	-
年齢	18～20代	516	47.7	23.1	12.8	12.2	10.7	9.3	1.2
	30代	392	51.5	27.3	17.1	8.7	10.7	8.2	1.0
	40代	476	54.4	21.0	12.0	12.2	9.2	6.9	1.1
	50代	440	52.3	21.1	13.9	14.3	11.6	6.8	2.7
	60代	503	44.3	17.5	16.7	17.7	9.5	10.3	3.2
	70代以上	1,086	33.3	18.9	19.7	18.7	17.5	12.2	2.7

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

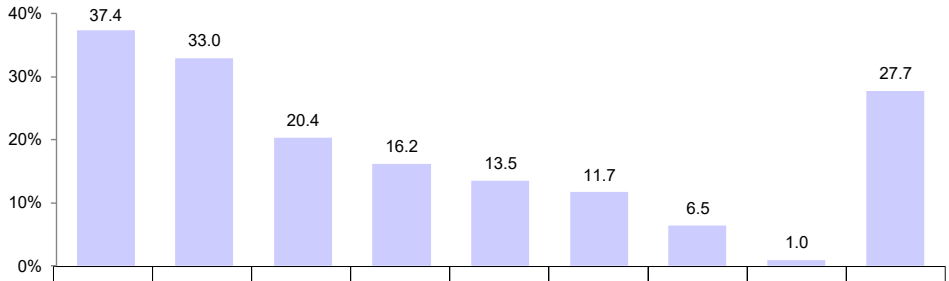
集計表　ＤＱ10：礼法を体験した場

（その他の内容）冠婚葬祭施設（ホテル・結婚式場）、禅寺に１泊しての修養会、神社、YouTube、テレビ番組

礼法を習いやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所で習えたら」の 37.4%で、次いで「費用が手頃だったら」33.0%、少し離れて「家族や知人等、身近な人から習えたら」20.4%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、30 代で「必要な道具等が借りられたら」（21.9%）、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」（20.9%）の回答比率が高くなっている。また、年齢が高くなるにつれて、「わからない」の回答比率が全体平均よりも高くなっている傾向も見て取れる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	通いやすい場所で習えたら	費用が手頃だったら	家族や知人等、身近な人から習えたら	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	必要な道具等が借りられたら	習う時間帯を調整してもらいやすかったら	指導で教本やテキストを使っていたら	その他	わからない
全 体		3,413	37.4	33.0	20.4	16.2	13.5	11.7	6.5	1.0	27.7
性別	男	1,269	35.6	29.8	21.5	17.5	14.3	13.0	7.5	1.1	25.4
	女	2,127	38.6	35.0	19.8	15.4	13.2	11.0	5.8	1.0	29.1
	それ以外／答えたくない	17	17.6	17.6	17.6	11.8	5.9	11.8	17.6	-	41.2
年齢	18～20代	516	32.0	31.2	21.5	14.9	15.5	14.3	8.9	0.2	22.5
	30代	392	37.5	35.5	23.2	18.4	21.9	20.9	6.4	0.8	19.4
	40代	476	37.2	34.7	17.9	18.1	14.3	12.4	6.7	0.2	25.8
	50代	440	40.5	34.3	17.3	19.5	13.4	14.1	8.6	0.2	29.1
	60代	503	40.0	36.0	18.1	16.9	12.9	10.3	7.4	1.2	29.2
	70代以上	1,086	37.7	30.2	22.4	13.4	9.6	6.5	4.1	2.1	32.9

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ11：礼法を習いやすい状況

（その他の内容）オンラインでなら、指導者との相性、同じ趣味の人がいたら

礼法に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000 円未満」の 74.9%で、次いで「5,000 円以上～10,000 円未満」15.4%、「10,000 円以上～15,000 円未満」3.8%となった。月額 1 万円以上支払ってもよいと回答した比率は 9.6%（3,413 人中 329 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で月額 1 万円以上支払ってもよいという回答が 14.8%（1,269 人中 188 人）あったのに対し、女性は 6.4%（2,127 人中 137 人）にとどまり、男女で差が見られる。

また、年齢別では、年齢が若いほど月額 1 万円以上支払ってもよいという回答が増える傾向がある。

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計10,000円以上
全 体		3,413	74.9	15.4	3.8	2.3	1.2	1.0	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	9.6
性別	男	1,269	67.7	17.5	5.6	3.7	2.1	1.6	0.8	0.1	0.2	0.3	0.4	14.8
	女	2,127	79.3	14.2	2.7	1.5	0.7	0.6	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	6.4
	それ以外／答えたくない	17	64.7	11.8	-	5.9	-	-	-	-	-	5.9	11.8	23.5
年齢	18～20代	516	62.4	17.6	6.8	5.0	2.5	2.1	0.6	0.6	0.8	1.2	0.4	20.0
	30代	392	66.8	15.3	7.7	3.8	2.6	1.3	1.5	0.3	-	-	0.8	17.9
	40代	476	68.3	18.7	3.8	3.4	1.9	1.9	0.8	0.4	0.4	-	0.4	13.0
	50代	440	78.4	14.8	2.3	1.8	1.1	0.9	0.2	-	0.2	-	0.2	6.8
	60代	503	81.5	13.9	2.2	1.4	-	0.4	0.2	-	-	0.2	0.2	4.6
	70代以上	1,086	82.2	14.0	2.3	0.6	0.5	0.2	-	-	-	-	0.2	3.8

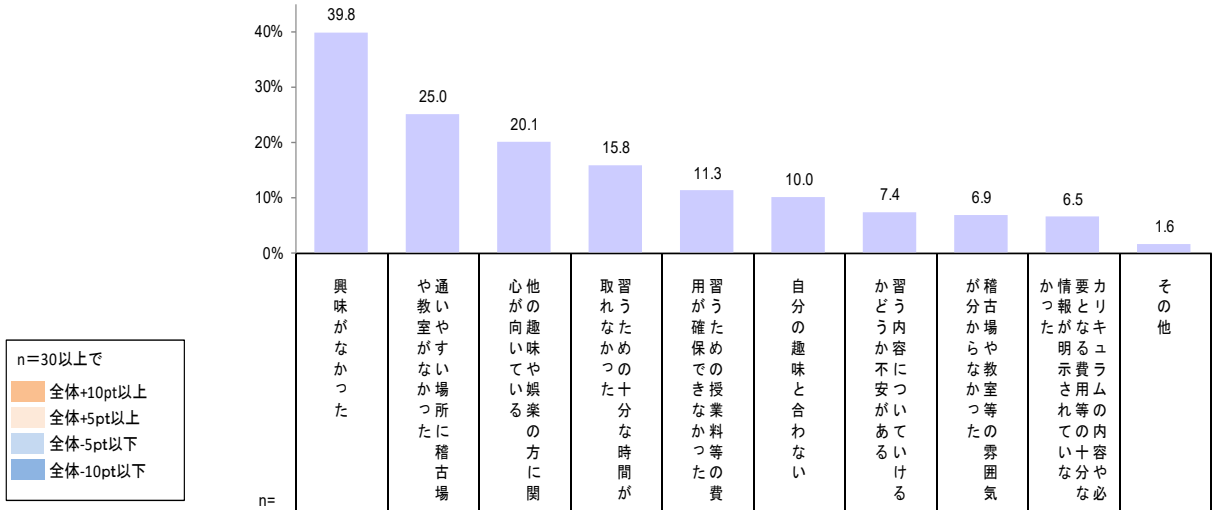
※n=30未満は参考値のため灰色

集計表　ＤＱ12：礼法に支払える月額費用

礼法を習っていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「興味がなかった」の 39.8%で、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」25.0%、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」20.1%となった。

年齢別では、10～40 代で「習うための授業料等の費用が確保できなかった」の回答比率が高い一方、年齢が高いほど「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」の回答比率が高まっている。



		n=	興味がなかった	通いやすい場所に稽古場や教室がなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	習うための十分な時間が取れなかった	習うための授業料等の費用が確保できなかった	自分の趣味と合わない	習う内容についていけるかどうか不安がある	稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった	カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった	その他
全 体		3,413	39.8	25.0	20.1	15.8	11.3	10.0	7.4	6.9	6.5	1.6
性別	男	1,269	38.1	25.3	18.7	18.3	14.0	11.7	8.6	7.3	8.7	1.2
	女	2,127	40.9	24.9	20.9	14.5	9.6	8.9	6.8	6.8	5.3	1.8
	それ以外／答えたくない	17	47.1	17.6	23.5	-	5.9	29.4	-	-	-	-
年齢	18～20代	516	43.8	22.9	13.0	14.0	15.1	9.7	6.8	7.6	7.4	0.4
	30代	392	42.3	26.3	13.8	16.3	17.9	10.7	8.2	7.7	8.2	1.3
	40代	476	40.3	24.4	13.9	15.5	16.0	8.6	7.4	7.4	6.3	0.8
	50代	440	43.2	24.3	20.2	17.7	11.4	9.5	7.7	7.7	8.6	0.9
	60代	503	42.5	24.3	21.3	17.7	8.2	9.9	7.8	7.2	6.4	1.8
	70代以上	1,086	34.3	26.5	27.9	15.0	6.4	10.9	7.3	5.8	4.9	2.8

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

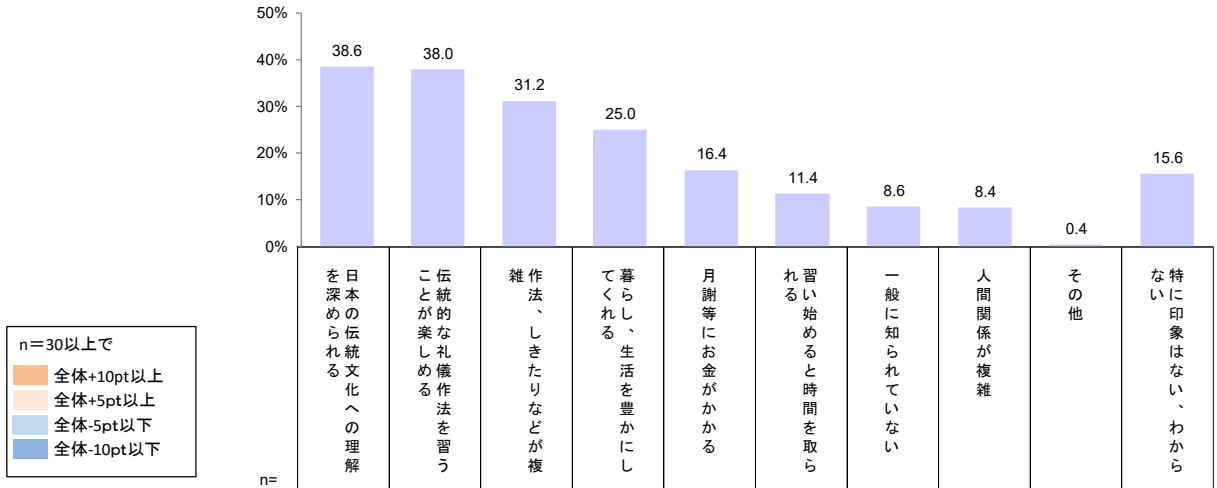
集計表　ＤＱ13：礼法を習っていない理由

（その他の内容）必要性を感じなかった、家族からの教示で十分、学校で十分やった、語りや能書きが多く方向が違う（堅苦しさ）

礼法に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の伝統文化への理解を深められる」の 38.6%で、次いで「伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる」38.0%、「作法、しきたりなどが複雑」31.2%となった。

年齢別では、10～30 代で「作法、しきたりなどが複雑」という回答比率が高く、70 代以上で低い傾向が見られる。また、30 代では「月謝等にお金がかかる」(21.7%)、「人間関係が複雑」(14.3%)というマイナスイメージの回答比率が高い一方、70 代以上では「日本の伝統文化への理解を深められる」(45.6%) というプラスイメージの回答比率が高くなっている。



		n=	日本の伝統文化への理解を深められる	伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる	作法、しきたりなどが複雑	暮らし、生活を豊かにしてくれる	月謝等にお金がかかる	習い始めると時間を取られる	一般に知られていない	人間関係が複雑	その他	特に印象はない、わからない
全 体		3,413	38.6	38.0	31.2	25.0	16.4	11.4	8.6	8.4	0.4	15.6
性別	男	1,269	39.2	34.3	31.0	22.1	16.2	11.7	7.9	10.1	0.5	16.2
	女	2,127	38.3	40.2	31.4	26.9	16.6	11.2	8.9	7.3	0.4	15.1
	それ以外／答えたくない	17	23.5	29.4	17.6	5.9	11.8	11.8	11.8	11.8	-	35.3
年齢	18～20代	516	28.1	34.7	36.4	21.1	16.7	10.5	7.4	9.7	0.2	13.6
	30代	392	37.5	35.7	37.5	24.5	21.7	14.5	7.4	14.3	0.5	14.0
	40代	476	31.1	37.0	29.6	21.6	17.0	13.2	8.2	8.2	0.2	13.2
	50代	440	39.5	41.6	35.7	23.2	20.5	15.5	11.1	10.7	0.5	12.0
	60代	503	41.2	39.6	31.4	28.8	16.9	11.5	9.9	7.4	0.2	17.3
	70代以上	1,086	45.6	38.6	25.2	27.5	12.3	8.1	8.0	5.2	0.6	18.9

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ14：礼法に対する印象やイメージ

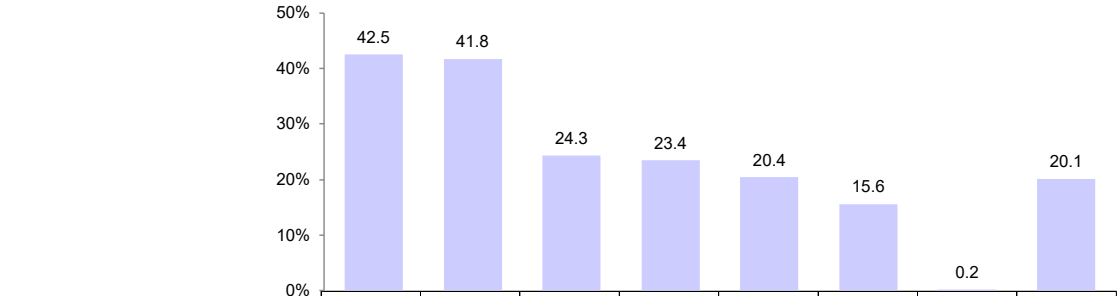
（その他の内容）堅苦しく煩雑で無駄が多い、独自ルールや作法の乱立で何が正しいのか分からない、知っていれば無難に過ごせる、一般常識として必要最低限の知識を学びたい

礼法に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」の42.5%で、次いで「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」41.8%、「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」24.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別で見た場合、男性で「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(36.6%)の回答比率が低いことが分かる。

年齢別で見ると、30代の「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」(29.8%)、「礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等」(26.3%)の回答比率が高い傾向にある。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作	伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる	礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる	集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる	礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全体		3,413	42.5	41.8	24.3	23.4	20.4	15.6	0.2	20.1
性別	男	1,269	42.0	36.6	23.8	24.7	20.3	15.1	0.2	20.4
	女	2,127	42.9	44.9	24.8	22.8	20.5	15.9	0.1	19.8
	それ以外／答えたくない	17	35.3	35.3	11.8	5.9	11.8	11.8	-	41.2
年齢	18～20代	516	38.4	38.4	23.1	22.5	20.5	15.3	0.2	18.4
	30代	392	45.2	38.3	29.8	23.7	26.3	14.0	0.3	20.9
	40代	476	43.7	39.7	23.1	21.0	21.6	14.9	0.2	17.6
	50代	440	43.9	42.0	25.2	23.6	22.3	16.8	0.5	18.9
	60代	503	42.9	44.5	22.1	22.7	17.1	14.7	0.2	23.1
	70代以上	1,086	42.3	44.1	24.2	25.0	18.4	16.6	-	20.9

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ15：礼法に関する興味関心や魅力

（その他の内容）日本の礼儀作法なので何でも知っておいて損な事はない、普段の姿勢所作がきれいになり、若く見られる

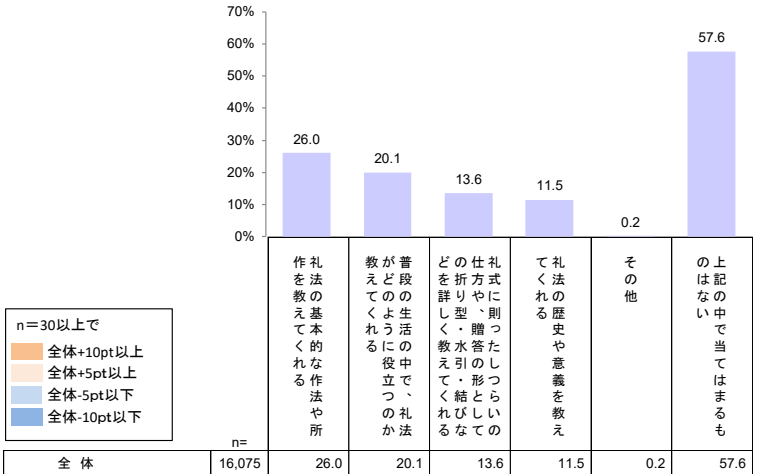
■礼法を「今まで経験したことはない」と回答した者への設問（ＤＱ16～ＤＱ20）

本設問では、礼法を経験したことがないと回答した者が、もし礼法を体験するなら、どのような内容や機会なら参加したいか、また、礼法に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

参加してみたい礼法の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 57.6%で、次いで「礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる」26.0%、「普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる」20.1%、「礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる」13.6%となった。

男女別では、男性で、「上記の中で当てはまるものはない」（64.9%）と全体平均を上回るほか、「礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる」（20.8%）は全体平均を下回っている。対照的に、女性は「礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる」（31.9%）、「普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる」（25.4%）となっており、男女差が大きい傾向が見られる。



		n=	礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	礼法の歴史や意義を教えてくれる	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		16,075	26.0	20.1	13.6	11.5	0.2	57.6
性別	男	8,201	20.8	15.3	10.2	11.7	0.2	64.9
	女	7,742	31.9	25.4	17.4	11.4	0.1	49.4
	それ以外／答えたくない	132	11.4	6.1	6.8	4.5	-	80.3
年齢	18～20代	2,159	19.7	14.6	11.6	9.6	-	64.5
	30代	2,217	24.4	18.1	14.3	11.6	0.1	60.1
	40代	2,953	29.8	21.1	17.3	13.4	0.1	54.9
	50代	2,691	26.6	20.4	14.1	12.1	0.1	56.6
	60代	2,437	26.4	20.5	12.1	11.3	0.2	56.5
	70代以上	3,618	27.1	23.1	12.2	10.7	0.3	55.6

※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ16：参加してみたい礼法の体験内容

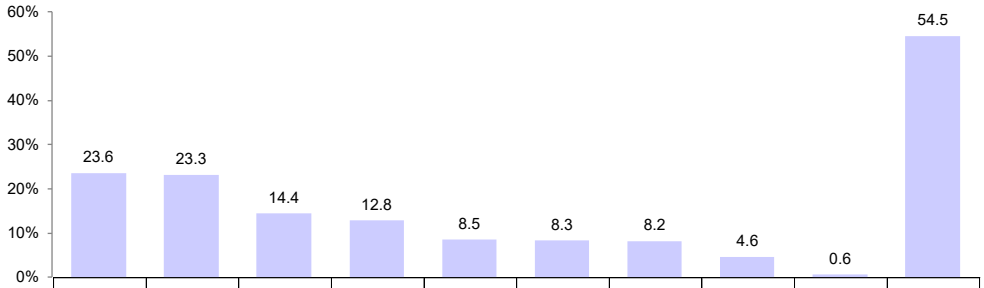
（その他の内容）車椅子利用者の礼法があるのなら知りたい、優しい指導者

参加しやすい礼法の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の 54.5%で、次いで「手ごろな参加費で参加できたら」23.6%、「行きやすい場所で体験できたら」23.3%となる。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「わからない」(62.0%) の回答比率が高い一方で、「手ごろな参加費で参加できたら」(17.2%)、「行きやすい場所で体験できたら」(17.2%) の回答比率が低い傾向にある。一方、女性は、「わからない」(46.3%) の回答比率は低く、「手ごろな参加費で参加できたら」(30.7%)、「行きやすい場所で体験できたら」(29.9%) の回答比率が高いことから、男女で礼法に対する関心の差があると推察される。

また、年齢別で見ると、18～20 代で「わからない」(60.6%) の回答比率が高く、「手ごろな参加費で参加できたら」(15.4%)、「行きやすい場所で体験できたら」(15.4%) の回答比率が共に低いことから、若い世代が礼法の体験そのものに関心を持てていないことが推察される。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	手ごろな参加費で参加できたら	行きやすい場所で体験できたら	家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら	初心者だけが参加できるような機会があれば	体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば	指導者の教え方が分かりやすかったら	体験に必要な費用や道具が明示されていれば	体験する時間帯等を調整してもらいやすければ	その他	わからない
全 体		16,075	23.6	23.3	14.4	12.8	8.5	8.3	8.2	4.6	0.6	54.5
性別	男	8,201	17.2	17.2	12.5	10.1	6.9	6.5	6.6	3.9	0.7	62.0
	女	7,742	30.7	29.9	16.6	15.8	10.3	10.3	9.9	5.5	0.6	46.3
	それ以外／答えたくない	132	9.1	7.6	4.5	6.1	5.3	3.0	8.3	3.0	-	78.0
年齢	18～20代	2,159	15.4	15.4	14.9	9.1	6.7	7.1	6.3	4.4	0.2	60.6
	30代	2,217	22.6	20.2	14.7	12.4	8.9	9.0	8.8	5.7	0.4	54.6
	40代	2,953	27.3	25.3	17.1	13.9	9.1	9.4	10.2	6.5	0.4	51.1
	50代	2,691	24.9	23.7	13.6	14.0	8.4	8.0	8.7	4.9	0.7	54.6
	60代	2,437	25.1	24.7	11.9	12.4	8.5	7.2	7.8	3.2	0.7	55.6
	70代以上	3,618	24.1	26.9	13.9	13.8	8.9	8.5	7.1	3.3	1.1	53.0

※全体の値を基準に降順並び替え

ＤＱ17：参加しやすい礼法の体験条件

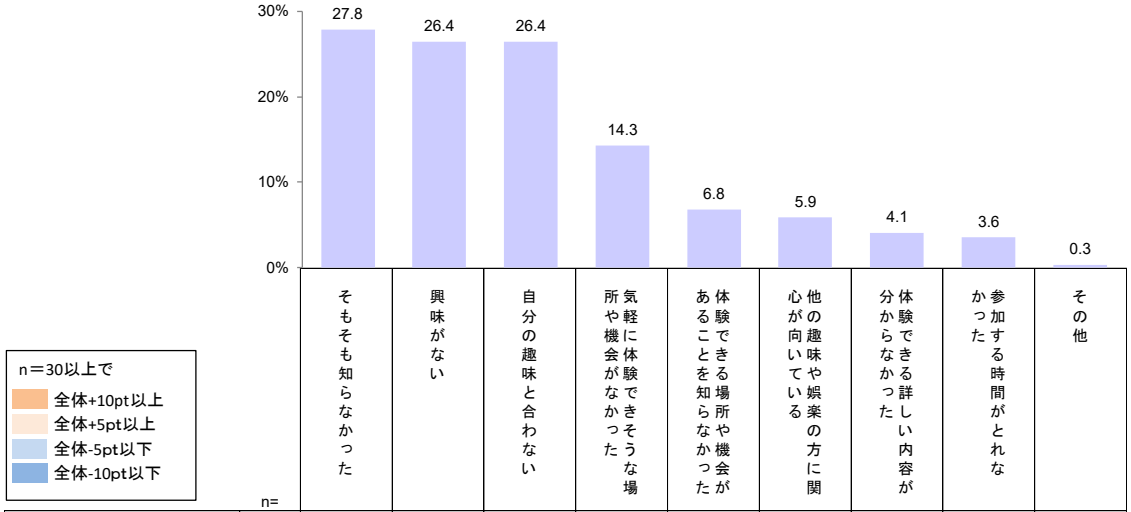
（その他の内容）無料体験、障害者でも参加可、指導者の人となりが分かったら（怖い人は嫌）、堅苦しくなければ、一人参加しやすい

礼法を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「そもそも知らなかった」の 27.8%で、次いで「興味がない」、「自分の趣味と合わない」（ともに 26.4%）となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「自分の趣味と合わない」（31.9%）の回答比率が高い。

また、年齢別で見ると、18～20 代で「自分の趣味と合わない」（36.6%）の回答比率が高く、70 代以上で「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」（21.3%）の回答比率が高い。



		n=	そもそも知らなかった	興味がない	自分の趣味と合わない	気軽に体験できそうな場所や機会がなかった	体験できる場所や機会があることを知らなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	体験できる詳しい内容が分からなかった	参加する時間がとれなかった	その他
全 体		16,075	27.8	26.4	26.4	14.3	6.8	5.9	4.1	3.6	0.3
性別	男	8,201	24.0	29.0	31.9	11.6	6.0	5.6	3.8	3.3	0.3
	女	7,742	32.0	23.8	20.2	17.3	7.6	6.2	4.5	3.9	0.3
	それ以外／答えたくない	132	21.2	16.7	53.0	6.1	3.0	0.8	0.8	3.0	0.8
年齢	18～20代	2,159	27.6	22.3	36.6	8.3	4.8	4.7	2.8	3.2	0.2
	30代	2,217	28.6	23.9	31.0	11.1	5.6	5.6	4.3	4.4	0.1
	40代	2,953	31.5	23.4	26.7	13.1	7.0	4.5	4.3	4.1	0.3
	50代	2,691	31.3	27.8	24.5	12.8	5.4	4.9	3.6	3.2	0.3
	60代	2,437	28.2	30.9	21.4	15.1	6.9	5.3	3.9	3.3	0.2
	70代以上	3,618	21.7	28.7	22.2	21.3	9.5	9.0	5.2	3.3	0.7

※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ18：礼法を体験したことがない理由

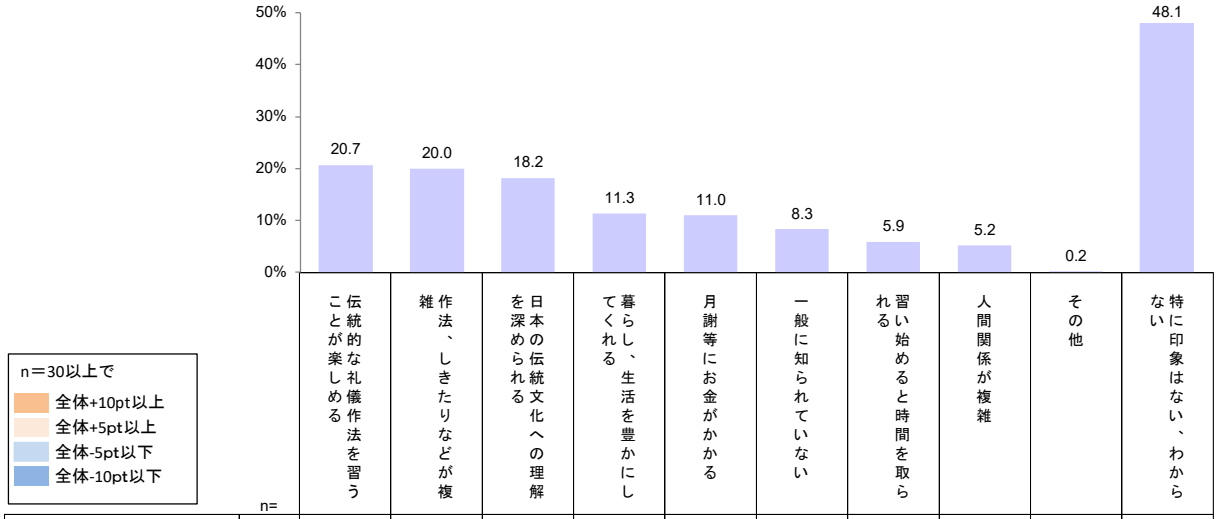
（その他の内容）必要な時に調べればいいから必要性を感じなかった、ある程度身についている、実生活で使い物にならない、茶道を習いながら礼法も学べた

礼法に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の 48.1%で、次いで「伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる」20.7%、ほぼ同率で「作法、しきたりなどが複雑」20.0%、次いで「日本の伝統文化への理解を深められる」18.2%と続いている。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別で見た場合、男性で「特に印象はない、わからない」（56.3%）の回答比率が高い。

また、年齢別で見ると、年齢が高い方が「日本の伝統文化への理解を深められる」という回答比率が高い。



		n=	伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる	作法、しきたりなどが複雑	日本の伝統文化への理解を深められる	暮らし、生活を豊かにしてくれる	月謝等にお金がかかる	一般に知られていない	習い始めると時間を取られる	人間関係が複雑	その他	特に印象はない、わからない
全 体		16,075	20.7	20.0	18.2	11.3	11.0	8.3	5.9	5.2	0.2	48.1
性別	男	8,201	16.5	16.5	15.7	8.2	8.0	6.8	5.1	4.7	0.3	56.3
	女	7,742	25.3	24.0	21.0	14.8	14.3	10.0	6.7	5.7	0.2	38.9
	それ以外／答えたくない	132	7.6	9.8	4.5	3.0	4.5	5.3	1.5	3.8	-	75.0
年齢	18～20代	2,159	15.0	17.1	10.9	8.2	7.3	5.6	5.0	5.6	-	56.9
	30代	2,217	18.4	21.3	14.7	10.4	11.9	7.8	6.6	6.5	0.1	50.3
	40代	2,953	23.2	22.6	17.7	12.2	12.5	7.8	6.2	5.8	0.2	46.5
	50代	2,691	21.4	19.6	16.8	9.9	12.9	8.4	6.2	5.1	0.4	47.6
	60代	2,437	21.6	19.9	19.9	11.0	10.4	8.8	5.3	4.4	0.1	47.1
	70代以上	3,618	22.1	19.4	24.7	14.3	10.4	10.4	5.7	4.2	0.4	43.6

※全体の値を基準に降順並び替え

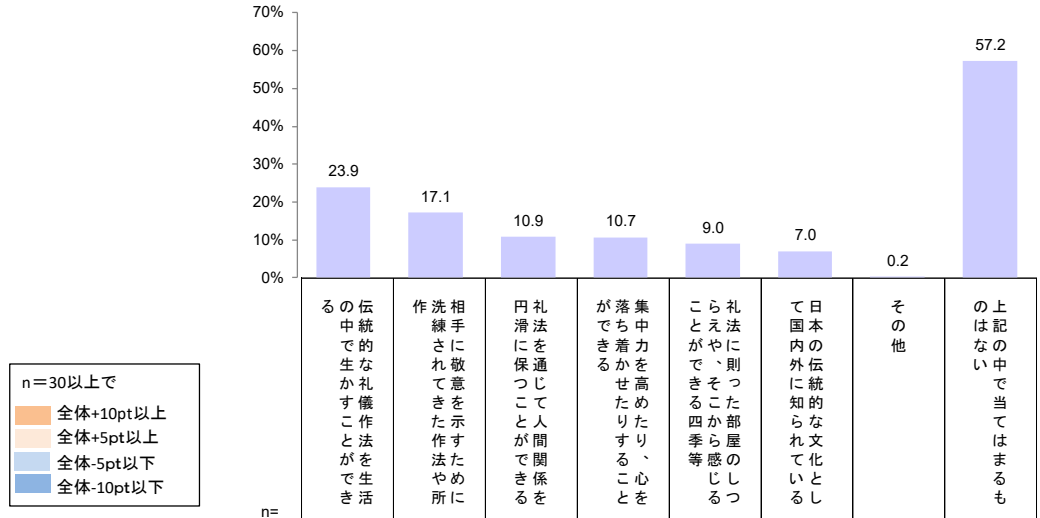
集計表　ＤＱ19：礼法に対する印象やイメージ

（その他の内容）堅苦しそう、面倒くさそう、役に立つ場面が日常にない、指導が厳しそう

礼法に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 57.2%で、次いで「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」23.9%、「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」17.1%、「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」10.9%と続く。

男女別で見ると、男性で、「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(18.0%) の回答比率が低く、「上記の中で当てはまるものはない」(64.5%) の回答比率も高いことから、男性よりも女性の方が礼法に対して興味関心や魅力を感じている傾向がうかがえる。



		n=	伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる	相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作	礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる	集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる	礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		16,075	23.9	17.1	10.9	10.7	9.0	7.0	0.2	57.2
性別	男	8,201	18.0	14.8	8.9	8.9	7.3	6.4	0.2	64.5
	女	7,742	30.4	19.8	13.1	12.8	10.8	7.7	0.1	49.1
	それ以外／答えたくない	132	9.1	7.6	5.3	2.3	5.3	5.3	-	78.8
年齢	18～20代	2,159	17.9	14.8	9.0	8.7	7.5	5.7	-	62.2
	30代	2,217	21.8	16.3	12.0	11.1	9.8	6.5	-	58.8
	40代	2,953	27.3	18.6	12.6	12.1	11.2	7.0	0.1	54.8
	50代	2,691	25.0	16.7	10.2	9.8	8.9	7.1	0.1	57.1
	60代	2,437	25.1	16.8	10.1	9.5	8.7	7.0	0.1	57.0
	70代以上	3,618	24.4	18.4	11.0	12.1	7.7	8.0	0.4	55.5

※全体の値を基準に降順並び替え

集計表　ＤＱ20：礼法に関する興味関心や魅力

（その他の内容）実生活で失礼にならないことなら学びたい、葬儀での振舞方

②調査結果に基づく分析と考察

本節では、礼法の振興施策の検討を主眼として前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

礼法に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問や設問間とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

礼法の経験・体験の有無と同居家族とのクロス集計の結果からは、「家族従業者」、「主婦・主夫」、「学生」に「参加体験あり」層がやや多い傾向にあることが分かる。居住地域、世帯年収とのクロス集計の結果からは際立った傾向は見られない。

居住地・職業・同居家族×礼法の経験の有無

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	FQ フィルタリング・パート「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全 体		20,000	2.6	17.1	80.4
居住地	北海道	852	2.5	13.4	84.2
	東北	1,385	2.8	16.4	80.8
	関東	7,422	2.8	16.7	80.5
	北陸	816	1.8	18.4	79.8
	東海（中部）	2,349	2.3	16.9	80.8
	近畿	3,247	3.0	17.3	79.7
	中国	1,140	2.1	17.4	80.5
	四国	584	0.7	19.0	80.3
	九州	1,987	2.5	19.2	78.3
	沖縄	218	1.8	13.3	84.9
職業	正規の職員・従業員	6,411	3.2	15.1	81.8
	非正規の職員・従業員	2,803	2.1	16.8	81.1
	自営業主・自由業	1,239	2.3	17.2	80.5
	家族従業者	135	3.7	24.4	71.9
	主婦・主夫	3,987	3.1	22.3	74.6
	学生	512	2.9	23.8	73.2
	リタイア、無職	4,141	1.6	14.9	83.5
	その他	772	1.4	13.5	85.1
同居家族	ひとり暮らし	4,145	3.5	15.8	80.7
	核家族	13,277	2.3	17.7	80.0
	三世代家族	1,179	2.9	19.8	77.4
	上記以外で同居している人がいる	1,399	1.6	12.9	85.6

昨年度の世帯年収×礼法の経験の有無

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	FQ フィルタリング・パート 「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全 体		20,000	2.6	17.1	80.4
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	3.8	11.4	84.8
	100万円以上～200万円未満	1,325	2.9	15.9	81.2
	200万円以上～300万円未満	2,030	3.0	17.6	79.4
	300万円以上～400万円未満	2,367	2.4	19.3	78.4
	400万円以上～500万円未満	1,937	3.0	17.6	79.4
	500万円以上～600万円未満	1,457	2.3	18.2	79.5
	600万円以上～700万円未満	1,096	2.6	20.3	77.0
	700万円以上～800万円未満	1,024	2.1	15.2	82.6
	800万円以上～900万円未満	702	3.4	19.4	77.2
	900万円以上～1，000万円未満	653	2.8	14.9	82.4
	1，000万円以上	1,525	3.4	20.0	76.6
	分からない	4,893	1.7	15.4	82.9

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、礼法の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者の全体平均（2.6%）と比較すると、「囲碁や将棋」(19.5%)、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」(14.4%)、「バレエやダンス」(13.2%)、「美術」（9.9%）が高い回答比率を示している。同様の傾向は「参加体験あり」と回答した者にも見られ、こちらでは「経験あり」の回答者で平均以上であった項目に加え、「楽器演奏」、「スポーツ・武道」でも平均を５%以上上回っている。

子供の頃の習い事×礼法の経験の有無

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	FQ フィルタリング・パート 「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全 体	20,000	2.6	17.1	80.4
楽器演奏（ピアノやバイオリンなど）や歌唱（コーラスや声楽など）	4,615	4.6	23.2	72.2
バレエやダンス（バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど）	755	13.2	30.7	56.0
美術（絵画や版画、彫刻、工芸など）	939	9.9	28.4	61.7
伝統芸能や茶道・華道等の芸事	743	14.4	33.9	51.7
囲碁や将棋	221	19.5	29.0	51.6
書道・習字・ペン字、そろばん	8,121	3.3	21.6	75.2
スポーツ・武道	3,661	3.8	22.9	73.3
その他	449	2.9	27.4	69.7
していない	7,852	0.9	9.5	89.7

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見ることができる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容のクロス集計結果を見ると、「特に何もしていない」との回答比率は全体平均で 17.4%であるが、「経験あり」（7.4%）、「参加体験あり」（4.9%）と回答比率が低いことから、経験あり・参加体験ありの回答者共に、趣味・娯楽等と積極的な関わりを持っていることがうかがえる。

趣味・娯楽等の活動内容の傾向として、「経験あり」と回答した者の場合、日本の伝統的な文化に関しては、「お茶」（11.7%）、「書道」（9.6%）、「お花」（9.4%）、「邦楽、民謡」（4.5%）、「おどり（日舞など）」（4.1%）、と全体平均を上回る回答比率となっている。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、「特に何もしていない」が 4.9%と全体平均を下回っているのを除き、全ての種目で、平均以上か平均並の回答比率となっており、分野に関わらず趣味・娯楽等活動を幅広く行っていることが推察できる。

次に、１ヶ月に使える趣味・娯楽等にかける費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかける費用については、「5,000 円未満」の回答比率が、全体平均の 49.5%と比較すると、「経験あり」「参加体験あり」と回答した者いずれも平均を下回っている。また、平均月２万円以上支出している割合を計算した場合、全体平均は 11.4%となるが、「経験あり」「参加体験あり」と回答した者ともに、全体平均を上回る回答比率であることから、礼法の経験や体験をした者の趣味・娯楽等の活動への積極的な関わりがこの集計においてもうかがうことができる。

次に、趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、「経験あり」と回答した者の趣味・娯楽等を行う時間帯として「平日夕方」（23.2%）の回答比率が高く、対照的に休日の活動率は全体平均を下回っている。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、「１時間未満」の回答比率が全体平均で 22.9%に対し、「経験あり」と回答した者は 19.0%、「参加体験あり」と回答した者は 18.8%と低い。一方、「２時間以上～３時間未満」の回答比率は全体平均を上回る回答比率となっており、「未経験」と回答した者と比べても、趣味・娯楽等の活動を積極的に行っている傾向が見られる。

礼法の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況									
		邦楽、民謡	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	特に何もしていない
全 体	20,000	1.5	17.3	1.7	1.6	1.8	0.4	16.1	30.7	15.7	17.4
「経験あり」層	512	4.5	15.6	9.6	11.7	9.4	4.1	13.7	28.1	13.7	7.4
「参加体験あり」層	3,413	3.0	22.1	3.7	4.1	4.1	0.7	20.9	42.6	24.6	4.9
「未経験」層	16,075	1.1	16.3	1.0	0.7	1.0	0.2	15.1	28.3	13.9	20.3

※共通設問１は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。（以下同様）

礼法の経験の有無×趣味・娯楽等に１ヶ月に使える費用

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問2 1ヶ月に使える趣味・余暇費用											
		５,０００円未満	１５０,０００円以上未満	１１５０,０００円未満	２１０５,０００円未満	２２５０,０００円未満	３２０５,０００円未満	３３５０,０００円未満	４３０５,０００円未満	４４５０,０００円未満	５４０５,０００円未満	５０,０００円以上	合計２０,０００円以上
全 体	16,527	49.5	22.9	10.2	5.9	3.1	3.0	1.4	0.6	0.4	0.6	2.3	11.4
「経験あり」層	474	32.1	19.0	13.5	11.8	6.3	5.3	2.5	2.1	1.1	0.6	5.7	23.6
「参加体験あり」層	3,246	40.8	25.8	12.4	6.8	4.3	3.5	1.8	0.7	0.7	0.8	2.2	14.1
「未経験」層	12,807	52.4	22.3	9.6	5.5	2.7	2.8	1.2	0.5	0.3	0.6	2.2	10.3

礼法の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問3 1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯							
		平日午前	平日午後	平日夕方	平日夜間	休日午前	休日午後	休日夕方	休日夜間
全 体	16,527	30.6	30.1	15.8	18.8	34.9	43.7	21.2	15.5
「経験あり」層	474	33.3	33.1	23.2	19.2	27.2	28.3	17.3	9.7
「参加体験あり」層	3,246	34.3	33.0	16.5	17.7	35.0	40.5	20.3	13.2
「未経験」層	12,807	29.6	29.2	15.4	19.1	35.2	45.1	21.6	16.4

礼法の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問4 趣味・余暇活動を行う時間										
		１時間未満	２１時間未満	３２時間未満	４３時間未満	５４時間未満	６５時間未満	７６時間未満	８７時間未満	９８時間未満	１９０時間未満	１０時間以上
全 体	16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	474	19.0	22.4	18.8	10.3	5.3	4.9	1.9	2.7	1.7	1.5	11.6
「参加体験あり」層	3,246	18.8	25.1	14.8	8.2	4.5	4.7	1.9	1.8	0.9	1.5	17.8
「未経験」層	12,807	24.1	23.1	13.2	6.5	4.5	3.9	1.7	1.9	0.9	1.3	18.9

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と礼法の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者は、「リスクはできるだけ避けたい」、「流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が全体平均を上回っている。また、「チャンスと感じたら逃したくない」（31.4%）の回答比率は、全体平均を上回ると共に「参加体験あり」との回答者の回答比率も上回っている。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」を除いた全項目で全体

平均を上回り、また、「家族や友人・知人の役に立ちたい」(36.4%)、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」(30.9%)、「流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい」(36.9%) の３項目で全体平均の回答比率を大きく上回っている。

「未経験」と回答した者の場合は、「上記であてはまるものはない」(25.5%) 以外の全項目で回答比率が全体平均を下回る。

礼法の経験の有無×消費行動に対する価値観

(%)

	n=	共通設問5 消費行動に対する価値観														
		自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい	周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい	チャンスと感じたら逃したくない	リスクはできるだけ避けたい	家族や友人・知人の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい	困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい	周りの人から注目されたい	集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ	その時・その場でしか得られない体験をしたい	流行りのものは試してみたい	流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい	買ったものや、気持ちを発信したい	自分が発信したものに反応が欲しい	上記であてはまるものはない
全 体	20,000	25.6	22.6	20.2	41.9	24.9	10.6	19.6	2.4	5.4	13.6	3.9	26.8	3.1	3.1	22.0
「経験あり」層	512	34.0	29.3	31.4	31.4	26.8	16.6	24.6	6.8	10.9	15.4	7.2	20.9	7.4	5.1	9.0
「参加体験あり」層	3,413	32.8	29.5	27.1	48.3	36.4	17.3	30.9	3.3	9.6	22.1	6.1	36.9	5.3	4.5	7.2
「未経験」層	16,075	23.8	21.0	18.3	40.9	22.4	9.0	17.0	2.1	4.3	11.8	3.4	24.8	2.5	2.7	25.5

n=30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

■普段接するメディアとのクロス集計結果

回答者が普段接するメディアと礼法の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者の場合、「CATV や衛星放送のチャンネル」、「ラジオ」、「新聞」、「雑誌・タウン誌」の回答比率が全体平均を５%以上上回り、その一方、「テレビ（民放)」、「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」、「動画投稿サイト」、「SNS」では回答比率が全体平均を下回っており、CATV や衛星放送、新聞や雑誌などに普段から接触している傾向が見られる。

一方、「参加体験あり」と回答した者の場合、全てのメディアの回答比率が全体平均を上回っており、幅広くメディアに接触しているものと推察される。

なお、「未経験」と回答した者の場合は、全てのメディアにおいて全体平均より回答比率がやや低い傾向にある。

礼法の経験の有無×接触メディア

(%)

	n=	共通設問6 接触メディア														
		テレビ（民放の地上波・BS）	テレビ（NHKの地上波・BS）	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ（インターネット経由を除く）	新聞（電子版含む）	雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）	インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）	動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）	SNS（TwitterLINE、Facebook、Instagram、Threadsなど）	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど）	上記のメディアはあまり見ていない
全 体	20,000	69.5	41.7	10.2	14.3	28.5	7.5	46.1	33.7	28.5	20.4	6.0	6.8	6.4	11.9	10.8
「経験あり」層	512	58.6	45.3	18.8	19.3	35.2	13.3	35.5	24.0	25.6	22.1	9.4	9.0	8.2	15.2	4.9
「参加体験あり」層	3,413	74.9	51.7	14.1	19.0	36.4	13.3	53.9	38.8	35.4	28.0	7.9	8.8	7.8	14.6	2.5
「未経験」層	16,075	68.7	39.5	9.0	13.1	26.6	6.1	44.8	32.9	27.1	18.7	5.4	6.4	6.0	11.2	12.8

n=30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、礼法の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

１）礼法を経験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも経験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、70 代以上が最も多く、次いで 18～20 代、30 代と続く。

次に経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者が多く、また、趣味・娯楽等の活動に積極性があり尚かつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。消費行動への意識については、チャンスと感じたら逃したくないという意識が強くあり、周りとの協調や一体感を大事にしつつも自身の考え方で物事を判断し、身近な人や社会の役に立ちたいという価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見える。普段のメディア接触については CATV やラジオ、新聞等のメディア媒体への接触率が高い傾向にあるといえる。

２）礼法を参加体験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも参加体験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。また、年齢別で見た場合、70 代以上が最も多く、次いで 18～20 代、60 代と続く。

次に、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向にあり、また、伝統的な文化への関わりが高い傾向がうかがえる。消費行動への意識については、面白いものを試したいという嗜好性が特徴として表れているほか、家族や知人、困っている人の役に立ちたいという傾向もうかがえる。また、普段のメディア接触については、地上波放送や BS 放送、新聞や雑誌、電子書籍や有料動画、紙の書籍等、普段から幅広くメディア接触に接触している傾向にある。

３）礼法を未経験と回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、経験がないとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して、特に何もしていないという回答比率が全体平均を上回っており、積極的に趣味・娯楽等を行うことがない回答者が多い傾向にある。消費行動への意識については、当てはまるものはないという回答が全体平均を上回っており、特徴的な傾向は見られない。また、メディア接触については、いずれのメディアとも接触率があまり高い傾向にあるとは言えない。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について更なる分析を行う。

はじめに、「未経験」と回答している者について分析を行う。上述の回答者属性に関する分析結果からは、「未経験」と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、「未経験」と回答した者が、なぜ礼法を経験してこなかったのか、また、礼法を経験することに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験層の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、礼法を体験してみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とＤＱ16「参加してみたい礼法の体験内容」とのクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

ＤＱ16では、体験内容として設定した選択肢には当てはまるものはないと57.6%が回答しており、残りの42.4%は、体験内容によっては礼法の体験に参加してみたいという意向を持っていると推察される。

まず、礼法の体験に参加してみたいとの意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動とのクロス集計結果からは、ほとんどの項目で全体平均を上回る回答比率を示していることから、趣味・娯楽等の活動に対して積極的であると分かる。

消費行動に対する価値観とのクロス集計結果からは、ほとんどの項目で、全体平均を上回る回答比率を示しており、明確な意見や嗜好性があることがうかがえる。この傾向は「参加体験あり」と回答した者の消費行動に対する価値観と近似している部分があり、家族や知人、困っている人の役に立ちたい、面白いものと思ったものは試してみたい、と言った項目が合致している。また、「参加体験あり」と回答した者の場合、リスクを避けたいとの回答が全体平均より高い（全体41.9%に対して48.3%）が、「未経験者」の場合、より強くこの傾向が見られる。

普段からのメディア接触とのクロス集計結果を見ると、消費行動に対する価値観と同じく、「参加体験あり」と回答した者と近似した傾向、つまり、普段から幅広くメディアに接触している傾向が見て取れる。

次に、礼法の参加体験の意向がない者について、その特徴を確認する。ＤＱ16で「上記の中であてはまるものはない」と回答した者は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」と回答しており、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選んでいる割合が高い。このように、礼法の参加体験の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とは言えず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向が確認できる。

参加してみたい礼法の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況									
		邦楽、民謡	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	美術鑑賞（テレビは除く）	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	特に何もしていない
全 体	16,075	1.1	16.3	5.6	1.0	0.7	1.0	0.2	15.1	13.9	20.3
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	4,187	1.7	23.5	10.3	1.8	1.5	1.8	0.3	23.9	23.3	6.3
礼法の歴史や意義を教えてくれる	1,851	2.5	22.6	12.3	1.5	1.7	1.8	0.5	24.0	22.3	5.3
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	2,193	2.2	26.4	12.3	1.8	1.9	2.4	0.4	26.2	26.4	5.8
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	3,225	1.9	25.2	11.4	1.7	1.6	2.1	0.4	25.4	24.4	5.8
その他	26	-	19.2	3.8	3.8	-	-	-	11.5	11.5	11.5
上記の中で当てはまるものはない	9,258	0.7	12.7	3.2	0.6	0.3	0.6	0.1	10.5	8.5	30.2

※n=30未満は参考値のため灰色

参加してみたい礼法の体験内容×消費行動に対する価値観

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問5 消費行動に対する価値観														
		自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい	周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したいと思う	チャンスと感じたら逃したくない	リスクはできるだけ避けたい	家族や友人・知人の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい	困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい	周りの人から注目されたい	集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ	その時・その場でしか得られない体験をしたい	流行りのものは試してみたい	流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい	買ったものや、気持ちを発信したい	自分が発信したものに反応が欲しい	上記であてはまるものはない
全 体	16,075	23.8	21.0	18.3	40.9	22.4	9.0	17.0	2.1	4.3	11.8	3.4	24.8	2.5	2.7	25.5
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	4,187	37.5	29.1	28.1	57.8	36.2	16.6	30.5	3.1	7.6	22.4	5.6	41.2	4.0	4.2	4.8
礼法の歴史や意義を教えてくれる	1,851	34.7	34.8	34.9	52.4	37.4	22.7	32.4	4.6	9.3	24.7	6.7	40.2	5.7	5.6	3.9
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	2,193	35.0	32.4	34.6	58.7	40.8	19.4	33.7	4.0	8.9	27.2	6.9	46.7	5.8	5.4	3.6
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	3,225	34.5	29.5	28.7	59.2	39.8	18.3	32.1	3.1	8.9	24.5	5.7	44.7	4.7	4.6	4.3
その他	26	26.9	50.0	15.4	50.0	11.5	7.7	15.4	-	-	-	-	50.0	-	7.7	15.4
上記の中で当てはまるものはない	9,258	16.2	16.2	12.5	32.4	14.7	4.9	9.9	1.4	2.4	6.1	2.1	16.7	1.6	2.0	40.5

※n=30未満は参考値のため灰色

参加してみたい礼法の体験内容×接触メディア

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問6 接触メディア														
		テレビ（民放の地上波・BS）	テレビ（NHKの地上波・BS）	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ（インターネット経由を除く）	新聞（電子版含む）	雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）	インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）	動画投稿サイト（YouTubeなど）	SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebook、mixi、Facebook、Google+など）	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	有料動画サイト（Amazon Prime Video、dmx、Hulu、Netflixなど）	上記のメディアはあまり見ていない
全 体	16,075	68.7	39.5	9.0	13.1	26.6	6.1	44.8	32.9	27.1	18.7	5.4	6.4	6.0	11.2	12.8
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	4,187	81.5	52.6	11.9	17.6	35.5	10.0	58.7	42.6	36.9	29.5	8.3	9.9	9.2	15.0	1.4
礼法の歴史や意義を教えてくれる	1,851	78.4	54.7	12.9	20.3	35.1	12.5	57.3	43.5	36.7	31.4	10.7	11.0	9.1	16.5	1.1
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	2,193	78.7	53.1	13.2	18.3	34.3	12.8	61.1	46.0	40.2	31.8	10.6	11.9	10.6	16.7	1.7
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	3,225	79.5	53.6	13.0	18.6	37.0	10.7	59.5	43.8	36.2	30.1	8.5	10.0	9.5	15.6	1.7
その他	26	65.4	42.3	23.1	3.8	42.3	-	65.4	42.3	30.8	23.1	3.8	3.8	-	7.7	3.8
上記の中で当てはまるものはない	9,258	61.7	32.2	7.4	10.4	21.5	3.9	37.7	27.9	22.1	13.1	3.9	4.7	4.5	9.2	20.7

※n=30未満は参考値のため灰色

■参加したい体験機会別に見た参加条件

次に、礼法は未経験と回答した者が体験したい内容、また、体験条件にはどのような特徴があるのかについて、ＤＱ16「参加してみたい礼法の体験内容」の各種の参加体験とＤＱ17「参加しやすい礼法の体験条件」の回答結果をクロス集計し、未経験者の考える体験しやすい内容と条件の傾向について分析を行う。

まず、ＤＱ16 で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の 87.7%が、ＤＱ17 で「わからない」と回答している。一方、実際に希望する体験機会がある層では、「わからない」という回答は極めて少ない。

具体的な体験内容を選択した者の参加条件への回答比率は、全体平均より非常に高い。体験条件の選択肢の回答比率を見ると、「行きやすい場所で体験できたら」、「手ごろな参加費で参加できたら」の２項目は回答比率が 50%から 60%台と高く、特に重視されている傾向が分かる。

そのほか、「礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる」という体験内容を希望する者は、必要な費用や道具、体験する時間帯等の調整、初心者だけの参加機会、体験する内容や雰囲気の事前確認、指導者の教え方の分かりやすさと言った選択肢の回答比率が他の回答比率に比べて高い傾向にあり、体験する際の内容や条件について気にかけている傾向が見られる。

以上のように、礼法を未経験であると回答した者のうち、ＤＱ16 で具体的な体験内容を答えた者の多くは、ＤＱ17 の体験を行う際の条件についても具体的な条件を選択していることから、体験内容及び条件が明確な方が未経験者への参加体験を促しやすいものと推察できる。

参加してみたい礼法の体験内容×参加しやすい礼法の体験条件

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	DQ17 参加しやすい礼法体験の条件									
		家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら	行きやすい場所で体験できたら	手ごろな参加費で参加できたら	体験に必要な費用や道具が明示されていれば	体験する時間帯等を調整してもらいやすければ	初心者だけが参加できるような機会があれば	体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば	指導者の教え方が分かりやすかったら	その他	わからない
全 体	16,075	14.4	23.3	23.6	8.2	4.6	12.8	8.5	8.3	0.6	54.5
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	4,187	36.7	57.2	57.4	20.3	11.3	31.3	21.0	19.6	0.5	8.0
礼法の歴史や意義を教えてくれる	1,851	34.4	62.2	60.6	28.0	17.1	32.6	24.7	23.2	0.5	6.4
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	2,193	33.9	63.0	68.2	33.3	19.2	39.5	30.0	26.5	0.6	4.6
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	3,225	28.8	56.5	57.9	24.1	14.8	38.9	27.1	26.8	0.5	8.4
その他	26	-	11.5	11.5	3.8	3.8	7.7	-	7.7	69.2	26.9
上記の中で当てはまるものはない	9,258	3.3	3.8	4.3	1.0	0.6	2.3	1.5	2.2	0.6	87.7

※n=30未満は参考値のため灰色

■これまで礼法を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

礼法を未経験と回答した者には、これまでに礼法を体験してこなかった理由（ＤＱ18）に関する問いを設けている。この設問を設けた理由として、未経験者のうちには、体験機会が身近になかった、特定の事情で体験することができなかった者や、そもそも全く興味がなかった等、回答者によって個々の事情や理由があることを想定したためである。

既に、回答者の中には興味関心がなかったわけではなく、体験できなかった事情や理由があると回答した者がいることがＤＱ18 の回答結果から判明しているが、体験できなかった事情や理由があると回答した者はどのような体験機会があれば参加しやすいと考えているのか。ＤＱ18 の回答と参加してみたい体験内容を問う設問（ＤＱ16）のクロス集計を行い、その傾向を分析する。

まず、礼法をこれまで体験してこなかった理由として「そもそも知らなかった」が回答比率として最も高く（27.8%）、次点で「興味がない」（26.4%）、「自分の趣味と合わない」（26.4%）と続いている。

ＤＱ16 とのクロス集計の結果を見ると、ＤＱ16 で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者では、ＤＱ18 で「自分の趣味と合わない」（41.3%）、「興味がない」（32.2%）の回答比率が全体平均よりも高いことが分かる。

一方、ＤＱ16 で具体的な体験内容についての選択肢を回答した者の場合、「そもそも知らなかった」が全体平均を上回る一方、「興味がない」が 10%台、「自分の趣味と合わない」が一桁台と、全体平均を下回っていることから、礼法自体を知らなかった者の中には、機会があれば参加体験を希望する層が一定数いると推察できる。また、ＤＱ18 の「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」、「体験できる場所や機会があることを知らなった」の回答比率が全体平均を大きく上回っており、体験機会そのものが身近になかった場合や、体験機会があっても体験機会を希望する者に情報として届いていなかったことが回答結果から推察される。

参加してみたい礼法の体験内容×礼法を体験したことがない理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ18 礼法を体験したことがない理由								
		そもそも知らなかった	興味がない	気軽に体験できそうな場所や機会がなかった	参加する時間がとれなかった	体験できる場所や機会があることを知らなかった	体験できる詳しい内容が分からなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	自分の趣味と合わない	その他
全　体	16,075	27.8	26.4	14.3	3.6	6.8	4.1	5.9	26.4	0.3
礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる	4,187	39.6	17.3	32.2	6.8	15.1	8.7	8.8	4.8	0.4
礼法の歴史や意義を教えてくれる	1,851	32.5	18.1	35.5	12.2	19.5	12.3	10.0	5.7	0.4
礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる	2,193	33.4	12.7	38.3	11.8	22.8	14.0	11.2	5.4	0.5
普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる	3,225	34.3	16.1	31.2	7.6	18.8	12.2	11.9	7.5	0.4
その他	26	-	65.4	11.5	3.8	7.7	3.8	19.2	34.6	19.2
上記の中で当てはまるものはない	9,258	22.4	32.2	3.2	0.8	1.4	1.0	3.5	41.3	0.3

※n=30未満は参考値のため灰色

■「未経験」層と「参加体験あり」層の礼法へのイメージの違い

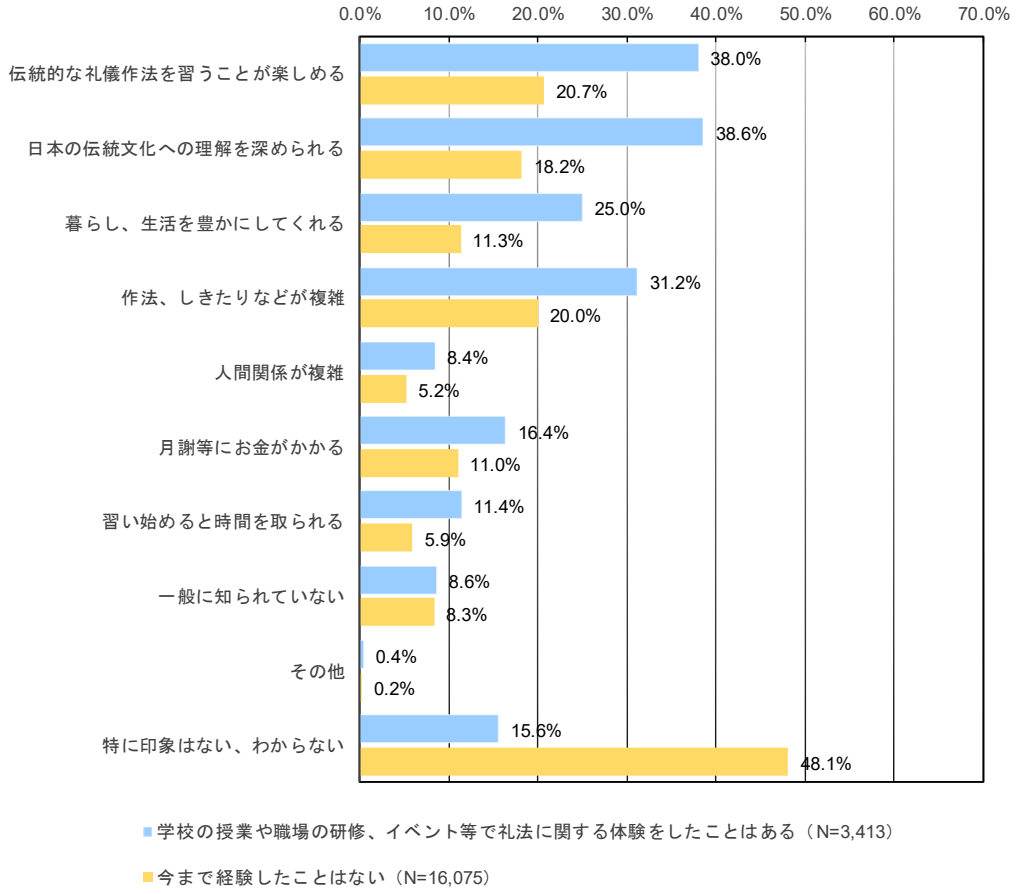
礼法を未経験と回答した者が持つ礼法へのイメージについて、ＤＱ19 の結果では、「特に印象はない、わからない」（48.1%）、「伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる」（20.7%）、「作法、しきたりなどが複雑」（20.0%）、「日本の伝統文化への理解を深められる」（18.2%）、「暮らし、生活を豊かにしてくれる」（11.3%）、「月謝等にお金がかかる」（11.0%）となっており、そもそも具体的なイメージを持っていない者が多い。この要因は、回答者が礼法の未経験者であることから具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。また、難解なものと捉えられる一方、プラスのイメージが先行している傾向が見られるが、これは、礼法が現在の社会生活において必要とされやすい、しきたりやマナーに通じているものと推察される。

下のグラフは、礼法の参加体験をしたことがある者のイメージ（ＤＱ14）と未経験者のイメージ（ＤＱ19）の回答結果を比較したものである。

未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は参加体験を行うことで大幅に減っている一方、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「作法、しきたりなどが複雑」の回答比率が未経験と比べて、参加体験した者の方が回答比率は高くなっており、他の選択肢についてもほぼ同様のことが指摘できる。

礼法の参加体験をすることで、礼法が持つ魅力はもちろんのこと、作法等の複雑さや時間や費用がどの程度かかるかも明確なイメージを描けるようになっていることが分かる。

未経験者と参加体験者の礼法に対する印象やイメージの違い



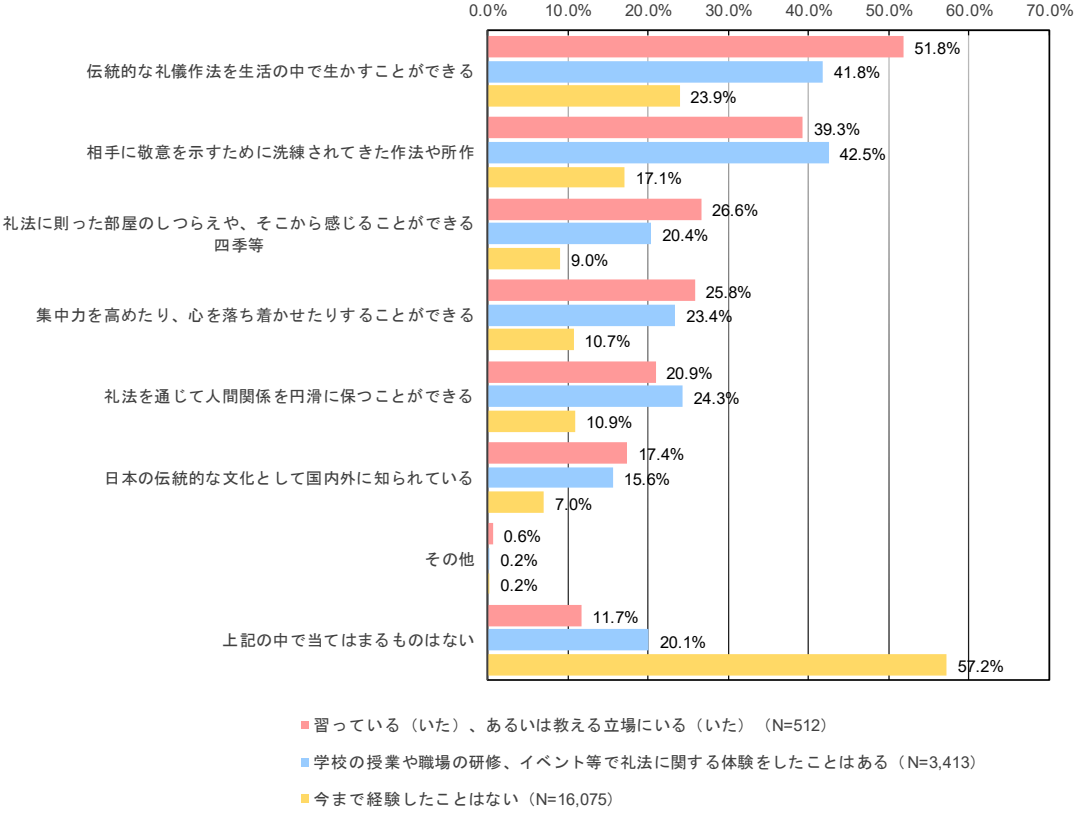
■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の礼法の魅力についての評価の違い

未経験者が礼法に対する印象やイメージを具体的に描けないように、礼法の魅力に対する設問（ＤＱ８、ＤＱ15、ＤＱ20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、礼法未経験者の回答者の半数が、「上記の中で当てはまるものはない」（57.2%）と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差がある。

このことは、他の魅力についても言え、参加体験者と未経験者を比較すると「相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作」や「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」の回答比率に大きな差が見られることから、イメージや印象と同じく実際に体験することの重要性がうかがえる。

各回答者における礼法に対する興味関心や魅力の違い



上記のクロス集計の結果から、礼法を未体験と回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

１）礼法に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

礼法を未経験であると回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 57.6%いる一方、42.4%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したいという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、他の礼法を未経験と回答した者と比べた場合、趣味・娯楽等の活動に対して積極的であり、消費行動への明確な意見を有し、普段から幅広いメディアに触れ

ている傾向にある。また、茶道や華道、邦楽などの日本の伝統的な文化への参加率も全体平均を上回る回答比率となっており、伝統的な文化への接触は決して低くない傾向にある。

２）未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

ＤＱ16、ＤＱ17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の 50～60％が、行きやすい場所と手頃な参加費用の２点を参加体験の条件としてとりわけ重視している傾向が見えてくる。

また、ＤＱ16 とＤＱ18 とのクロス集計の結果からは、体験できなかった事情・理由として「気軽に体験できる場所がなかった」「そもそも知らなかった」の回答比率が高いことから、参加体験の意向を持つ者の多くが、礼法を知る機会や、体験する機会を得ることができなかったことが分かる。

３）礼法の印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、礼法に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、経験を重ねた者ほど、礼法の作法や所作、礼法の持つ意義などの具体的な行為や意味等と魅力が結びつけられるようになっている。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあって礼法を体験する機会を得ており、しかし、習うまでには至ってはいない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、習うまでには至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（ＤＱ９）を問う設問の結果から、学校や稽古場、文化施設等で行われた体験イベントがきっかけであるという回答比率が 48.0％と最も高く、次いで趣味や教養として礼法に興味関心があったとの回答が 15.6％と、参加体験者の半数以上は体験イベントをきっかけに礼法の参加体験をしている傾向が見られる。また、体験の場（ＤＱ10）については学校の授業や職場での研修、部活動やサークル活動のイベントの回答比率が高く、学校や職場における体験が中心となっている。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、ＤＱ９とＤＱ10 のクロス集計の結果が下の表である。前述のとおり、体験したきっかけについて、学校や稽古場、文化施設等での体験イベント（48.0％）と回答した者のうち、「学校の授業や職場の研修会」（66.1％）、「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」（57.7％）で体験を行ったとの回答比率が高い。

他方、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（10.5％）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（7.6％）を選択した者では、「自宅」で、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（15.6％）と回答した者は、「文化施設等で行われた体験イベント」（29.0％）、で体験を行っていた回答比率が高いことが分かる。

このような結果から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、現状においては、イベント等での体験機会による参加体験の提供が、礼法を見知る場として大きい位置を占めているものと推察される。

礼法を体験した場×礼法を体験したきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ9礼法を体験したきっかけ								
		親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	友人、知人などから勧められた・誘われた	学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	趣味や教養として、礼法に興味関心があった	礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	その他
全　体	3,413	10.5	7.6	9.3	48.0	12.0	15.6	6.7	11.2	3.9
教室や稽古場等で開かれた体験会	510	24.3	11.6	14.3	45.7	10.0	22.0	9.6	13.1	1.4
学校の授業や職場の研修会	1,522	7.9	7.3	7.1	66.1	12.5	11.7	6.0	5.5	3.3
学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント	712	9.7	10.3	16.0	57.7	14.2	19.2	7.9	6.6	1.8
文化施設等で行われた体験イベント	549	12.0	8.9	18.0	45.5	22.4	29.0	11.1	8.6	1.8
自宅	327	27.8	27.2	12.8	17.4	16.2	23.9	10.1	11.3	3.4
自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	430	9.1	5.6	8.8	19.5	8.4	23.0	12.8	52.1	1.4
その他	72	2.8	0.0	1.4	13.9	11.1	5.6	2.8	4.2	68.1

■礼法を習いやすい状況

礼法を習いやすい状況（ＤＱ11）に関する設問の結果では、通いやすい場所（37.4%）、費用の手頃さ（33.0%）の２つが主な条件となっている。一方、支払い可能な金額（ＤＱ12）を見ると、「5,000 円未満」（74.9%）、「5,000 円以上～10,000 円未満」（15.4%）と続き、回答者の約 90%が１万円未満の費用であれば習いやすいと回答している。

ＤＱ11 とＤＱ12 のクロス集計の結果を見ると、「5,000 円未満」を選択した者の中では、習いやすい状況として「その他」「わからない」を選択している者が全体平均 74.9%を上回っているほか、その他の習いやすい状況についての項目は全て全体平均を下回る結果となっている。一方、「5,000 円以上～10,000 円未満」（15.4%）と回答した者の場合、通いやすい場所や道具の貸与、具体的なカリキュラムの提示等が全体平均を上回っていることから、具体的に習うことを想定して回答を行っているものと推察される。

礼法を習いやすい状況×礼法に支払える月額費用

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ12礼法に支払える月額費用										
		5,000円未満	15,000円以上～	11,000円以上～	21,000円以上～	22,000円以上～	32,000円以上～	33,000円以上～	43,000円以上～	44,000円以上～	54,000円以上～	50,000円以上
全 体	3,413	74.9	15.4	3.8	2.3	1.2	1.0	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3
家族や知人等、身近な人から習えたら	697	75.2	15.9	5.3	1.0	1.6	0.3	-	0.1	0.1	0.3	0.1
通いやすい場所で習えたら	1,277	69.6	20.5	4.5	2.7	1.0	0.6	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3
費用が手頃だったら	1,125	74.0	17.1	4.4	2.0	1.0	0.7	0.4	0.2	-	0.2	0.1
必要な道具等が借りられたら	462	57.6	23.2	6.9	6.1	2.2	2.4	1.3	-	0.2	-	0.2
習う時間帯を調整してもらいやすかったら	400	62.5	20.8	8.0	3.3	3.3	1.0	1.0	-	-	0.3	-
指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	552	67.4	22.1	4.0	3.1	0.5	1.1	0.9	0.2	0.4	0.4	-
指導で教本やテキストを使っていたら	222	64.4	20.3	3.2	2.3	1.4	4.5	0.5	0.9	0.9	0.9	0.9
その他	35	88.6	11.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
わからない	947	91.1	6.5	0.7	0.3	0.3	0.4	0.1	-	-	-	0.4

次に、礼法をこれまで習っていない理由（ＤＱ13）に関する設問の結果では、「興味がなかった」（39.8%）が最も多く、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（25.0%）、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」（20.1%）と続く。ＤＱ11 の習う状況とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい状況について分析を行う。

参加しやすい状況について「わからない」（27.7%）と回答した者のうち、習わなかった理由について「自分の趣味と合わない」（51.3%）、「興味がなかった」（44.3%）の回答比率が高く、体験をしても興味関心が湧かなかったことが分かる。

一方、参加しやすい状況として、「通いやすい場所で習えたら」（37.4%）と回答した者が習っていない理由として「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（64.2%）が最も多く、次いで「習う内容についていけるかどうか不安がある」（57.5%）、「習うための十分な時間がとれなかった」（57.4%）と続き、身近な場所で習いたいと思う一方で、時間の確保が難しかったり、習う内容への不安があったりしたことが見える。「費用が手頃だったら」（33.0%）と回答した者の場合は、費用の

確保ができなかったとの回答比率が高く、続いて習う内容についていけるかどうかの不安と、教室等の雰囲気が分からなったとの回答比率が高い。

礼法を習っていない理由×礼法を習いやすい状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ11礼法を習いやすい状況								
		家族や知人等、身近な人から習えたら	通いやすい場所で習えたら	費用が手頃だったら	必要な道具等が借りられたら	習う時間帯を調整してもらいやすかったら	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	指導で教本やテキストを使っていたら	その他	わからない
全　体	3,413	20.4	37.4	33.0	13.5	11.7	16.2	6.5	1.0	27.7
興味がなかった	1,360	19.2	26.8	27.2	7.8	6.7	10.6	3.8	1.0	44.3
通いやすい場所に稽古場や教室がなかった	854	24.7	64.2	49.4	21.3	18.1	21.5	8.2	0.1	7.1
習うための授業料等の費用が確保できなかった	384	23.4	55.7	57.6	36.5	25.5	22.9	9.4	0.3	5.2
習うための十分な時間が取れなかった	540	26.5	57.4	51.3	28.5	26.3	26.5	12.2	0.4	7.6
カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった	223	25.6	49.8	47.1	34.1	29.6	43.0	14.8	0.4	7.6
稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった	237	22.8	57.0	51.9	36.7	27.4	44.3	20.7	-	7.2
習う内容についていけるかどうか不安がある	254	26.8	57.5	55.1	32.3	24.8	36.2	16.5	0.4	10.6
他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	686	23.6	44.8	37.9	13.1	13.4	22.6	10.5	0.4	24.9
自分の趣味と合わない	343	15.7	19.8	19.2	7.3	9.6	13.4	8.7	2.6	51.3
その他	54	24.1	16.7	22.2	5.6	9.3	13.0	3.7	24.1	24.1

クロス集計の結果を見る限り、回答者にとって礼法を習いやすい状況とは、礼法を習わなかった事情や理由と密接な関係があり、通える場所や時間、習う内容や教室等の雰囲気と言った部分が、習い始める時に参加体験者にとってのハードルになりやすくなっている傾向が見える。

上記のクロス集計の結果から、礼法の参加体験ありと回答した者の傾向や特徴をまとめると、以下のとおりである。

１）参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

ＤＱ９とＤＱ10 のクロス集計結果の分析から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけとして礼法を体験した者が多い傾向にある。他方、親族が礼法を習ったり、教えていたりした場合は自宅が体験機会の場に、礼法についてメディアを通じて知ったり、興味関心があった者は、文化施設等の体験イベントに参加して体験する等、きっかけの違いが、体験の機会に関係していることが分かる。また、学校や職場等での体験イベントは、礼法を知り・体験する場として大きな役割を果たしているとともに、礼法に関する担い手の活動の場ともなっていると推察される。

２）参加体験者が考える習いやすい状況や内容ついての傾向と特徴

参加体験者が礼法を習いやすい状況や内容について、月に支払える費用と習いやすい状況と

のクロス集計結果からは、月額の費用として 5,000 円以上を支払うと回答した者ほど、習いやすい具体的な状況について回答している傾向にあり、礼法を習っても良いと考える者と捉えることができる。

習っていない理由と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、参加体験をしても礼法に興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があっても通える場所がない等の事情があることが分かる。加えて、習うための時間の確保や、習う場所の雰囲気が分からない等も回答として多く、参加体験者にとって、習う内容や機会に関する詳しい情報があった方が、習い始めやすいと考えていることが、回答結果の分析からうかがえる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。経験者がどのような経緯や場所で礼法を習い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

礼法を習い始めたきっかけ（ＤＱ１）の回答結果では、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（25.2%）が最も高く、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（23.0%）、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（20.5%）、「学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」（19.3%）と続いている。以上の点から、経験ありと回答した者の身近には、礼法に関わる者がいたり、礼法に関する情報やイベントがあったりしたことで、礼法を習い始めるきっかけが生み出される背景があったことが推察される。

次に、習い始めたきっかけ（ＤＱ１）と現在の継続状況（ＤＱ３）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（38.5%）に対し、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（69.2%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（66.0%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（58.1%）の回答者の継続率は、全体平均を上回っている。反対に、非継続率の全体平均（61.5%）を比べると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（69.5%）、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（67.4%）が全体平均を上回っており、親族等が礼法に関わっていることをきっかけとして習い始めた回答者の方が、継続率が高い傾向にあり、反対に、自分の趣味との関わりや教養として関心を持った者については、何らかの理由で継続できていない傾向にあることが分かる。

礼法を習い始めたきっかけ×現在の継続状況

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	DQ3 現在の継続状況	
		続けている	続けていない
全 体	512	38.5	61.5
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	129	58.1	41.9
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	94	66.0	34.0
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	118	53.4	46.6
学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	99	44.4	55.6
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	52	69.2	30.8
趣味や教養として、礼法に興味関心があった	95	32.6	67.4
礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	56	44.6	55.4
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	105	30.5	69.5
その他	15	-	100.0

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、継続理由に関する設問（ＤＱ３補問１）では、「日本の文化だから」（46.2%）の回答比率が最も高く、次いで「指導者や教授者として活動したい（している）」（41.1%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（29.9%）と続いている。始めたきっかけ（ＤＱ１）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「日本の文化だから」と回答した者の中でも「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（66.1%）、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（64.5%）を、礼法を習い始めたきっかけであると回答している者の比率が高い。また、「指導者や教授者として活動したい（している）」と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（62.7%）と回答している比率が高い一方、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（35.5%）の回答比率が全体平均を大きく下回っている。

また、継続率において最も回答比率が高かった習い始めるきっかけ「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」を選んだ者は、「相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」（66.7%）の回答比率が高い傾向にある。

礼法を習い始めたきっかけ×礼法を続けている理由

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	DQ3補問1 礼法を続けている理由								
		指導者や教授者として活動したい（している）	日本の文化だから	一緒に楽しむ仲間がいる	相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい	礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる	習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった	その他	特に理由はない	上記の中で当てはまるものはない
全 体	197	41.1	46.2	29.9	26.4	23.4	18.3	0.5	1.5	0.5
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	75	62.7	48.0	36.0	25.3	21.3	22.7	-	2.7	1.3
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	62	46.8	66.1	43.5	35.5	29.0	24.2	-	1.6	1.6
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	63	47.6	54.0	49.2	39.7	30.2	25.4	-	-	-
学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	44	38.6	56.8	50.0	59.1	52.3	34.1	-	-	-
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	36	41.7	50.0	55.6	66.7	52.8	33.3	-	-	-
趣味や教養として、礼法に興味関心があった	31	35.5	64.5	41.9	58.1	61.3	48.4	3.2	3.2	-
礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	25	56.0	68.0	48.0	72.0	64.0	52.0	-	-	-
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	32	50.0	59.4	40.6	53.1	53.1	56.3	3.1	6.3	-
その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※n=30未満は参考値のため灰色

一方、礼法から離れたきっかけ（ＤＱ３補問２）を見ると、「時間がなくなった」（36.2%）と「近くに習う場所がなくなった」（26.7%）が大きな理由となっている。

始めたきっかけ（ＤＱ１）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「時間がなくなった」と回答した者の場合、始めたきっかけとして「礼法に係る仕事や職業に興味関心があった」（48.4%）、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（47.3%）の２項目が全体平均を特に上回っている。また、「近くに習う場所がなくなった」と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（40.6%）、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（40.0%）の２項目が全体平均を上回っており、友人や知人からの勧めで始めた者が習う場所や時間の事情で、継続が難しくなり止めてしまう傾向にあると推察される。

一方、「当初目標としていたことが達成できた」（7.3%）と回答した者のうち、「趣味や教養として、礼法に興味関心があった」（15.6%）をきっかけとした回答者の比率が高く、到達する目標があり、何らかの目的を持って習い始め、その目標が達成できたために辞めたという回答者も一定数いることが分かる。

礼法を習い始めたきっかけ×礼法から離れたきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ3補問2 礼法から離れたきっかけ									
		時間がなくなった	近くに習う場所がなくなった	当初目標としていたことが達成できた	興味を失った	経済的に続けるのが難しくなった	健康面、体調面で続けることが難しくなった	一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった	習っている内容についていけなくなった	指導者や教授者を引退した	その他
全 体	315	36.2	26.7	7.3	17.8	4.8	8.3	7.6	2.9	7.9	6.3
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	54	42.6	22.2	11.1	13.0	3.7	7.4	11.1	3.7	5.6	5.6
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	32	34.4	40.6	3.1	18.8	6.3	15.6	6.3	3.1	6.3	3.1
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	55	47.3	40.0	3.6	12.7	5.5	10.9	16.4	1.8	3.6	3.6
学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	55	30.9	36.4	9.1	21.8	3.6	7.3	10.9	3.6	7.3	9.1
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	16	37.5	31.3	6.3	12.5	12.5	-	12.5	12.5	12.5	6.3
趣味や教養として、礼法に興味関心があった	64	39.1	28.1	15.6	9.4	7.8	10.9	6.3	4.7	10.9	1.6
礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	31	48.4	32.3	3.2	19.4	0.0	6.5	3.2	0.0	9.7	0.0
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	73	31.5	24.7	6.8	19.2	5.5	11.0	11.0	4.1	15.1	6.8
その他	15	-	13.3	13.3	26.7	-	6.7	13.3	-	-	40.0

※n=30未満は参考値のため灰色

以上のようなクロス集計の結果からは、テレビ等のメディアを通じて礼法を知ったり、親族が礼法を習っていたり、教えていたりしたことを契機として習い始めた者については、継続性が高い傾向にあり、とりわけ親族が習っていたことをきっかけに礼法を習い始めた者の場合、自身が教授者として活動していたり、今後教授者として活動しようと考えている傾向が見られる。

一方、礼法に対して趣味や教養の観点から興味関心を持ったり、友人・知人から誘われたりした場合の継続性は決して高い傾向とは言えない。ただし、これは、習うための時間や場所が失われてしまう等の事情があったり、目標を持って習い始めその目標を達成できたから辞めたりした、という事情もあることが結果からうかがえる。

■活動内容

礼法に関する活動内容（ＤＱ５）の結果では、「教室や稽古場で習っている（いた）」（51.0%）が半分強を占め、次いで「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（28.3%）、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」（26.2%）と続く。

まず、活動内容（ＤＱ５）と現在の継続状況（ＤＱ３）についてクロス集計を行い、活動内容と継続率の関係を分析する。このうち継続していると回答した者（38.5%）の中で、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（60.0%）が最も回答比率が高く、次いで「指導者や教授者として教えている（いた）」（56.0%）と続く。

礼法に関する活動内容×現在の継続状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ3 現在の継続状況	
		続けている	続けていない
全 体	512	38.5	61.5
教室や稽古場で習っている(いた)	261	41.0	59.0
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	60.0	40.0
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	44.8	55.2
指導者や教授者として教えている(いた)	50	56.0	44.0
その他	29	10.3	89.7

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、活動内容（ＤＱ５）と経験年数（ＤＱ４）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。経験年数が「２０年以上」（10.7%）と回答した者のうち、「指導者や教授者として教えている（いた）」（34.0%）と全体平均を大きく上回っており、逆に「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（6.2%）のみが平均回答比率を下回っている。また、「１０～２０年未満」（9.8%）と回答した者の中でも、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（7.6%）は回答比率が低く、１年以上～５年未満程度の経験年数の者がカルチャーセンター等で礼法を習っていることが分かる。

礼法に関する活動内容×礼法を続けている年数

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ4 礼法を続けている年数						
		1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	3年以上合計
全 体	512	25.0	23.4	19.1	11.9	9.8	10.7	51.6
教室や稽古場で習っている(いた)	261	26.8	17.6	16.5	14.9	11.1	13.0	55.6
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	15.9	29.7	28.3	12.4	7.6	6.2	54.5
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	17.9	24.6	23.9	11.9	9.7	11.9	57.5
指導者や教授者として教えている(いた)	50	6.0	14.0	14.0	16.0	16.0	34.0	80.0
その他	29	41.4	24.1	6.9	3.4	13.8	10.3	34.5

※n=30未満は参考値のため灰色

活動内容（ＤＱ５）と活動頻度（ＤＱ６）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。「週に２～３回」（14.1%）と回答した者のうち、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（25.5%）の項目への回答比率が高いことから、カルチャーセンターでの受講頻度の傾向が見える。また、「ほぼ毎日」（12.9%）と回答した者のうち「指導者や教授者として教えている（いた）」（18.0%）の回答比率が高く、これは職業としての指導者や教授者が回答者の中に含まれていることが予測される。また、「月数回程度」（17.0%）と回答した者でも指導者や教授者として活動しているとの回答比率は高く、こちらは教室等を月数回程度開いていることを意味しているものと考えられる。

礼法に関する活動内容×礼法に関する活動頻度

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	DQ6 礼法に関する活動頻度						
		ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度
全 体	512	12.9	14.1	21.3	17.0	10.9	7.0	16.8
教室や稽古場で習っている(いた)	261	16.9	11.5	20.7	17.2	12.6	6.9	14.2
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	13.1	25.5	22.8	16.6	8.3	4.8	9.0
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	14.9	12.7	25.4	17.9	9.7	6.7	12.7
指導者や教授者として教えている(いた)	50	18.0	14.0	4.0	26.0	12.0	12.0	14.0
その他	29	17.2	3.4	-	3.4	-	10.3	65.5

※n=30未満は参考値のため灰色

活動内容（ＤＱ５）と月額費用（ＤＱ７）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。

「5,000 円未満」（51.2%）と回答した者のうち、教室や稽古場で習っていると回答した者以外の項目は、全体平均を下回っている。また、5,000 円以上の費用を見ると、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」は、「5,000 円未満」以外の費用で全て全体平均を上回っていることが分かる。一方、「教室や稽古場で習っている（いた）」と回答している者の費用は「5,000 円未満」のほか 35,000 円以上の項目で平均を少し上回っていることが見える。

礼法に関する活動内容×礼法に関する月額費用

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	DQ7 礼法に関する月額費用											
		5,000円未満	150,000円以上～	110,000円以上～	210,000円以上～	220,000円以上～	320,000円以上～	330,000円以上～	430,000円以上～	440,000円以上～	540,000円以上～	50,000円以上	合計10,000円以上
全 体	512	51.2	18.2	10.0	6.4	3.5	3.7	1.2	1.2	1.0	1.8	2.0	30.7
教室や稽古場で習っている(いた)	261	54.0	18.8	9.2	3.8	3.1	2.3	1.1	1.9	1.1	1.9	2.7	27.2
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	145	29.0	21.4	14.5	12.4	5.5	6.2	2.1	1.4	1.4	3.4	2.8	49.7
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	134	44.8	12.7	9.0	9.0	6.0	6.7	2.2	0.7	1.5	3.7	3.7	42.5
指導者や教授者として教えている(いた)	50	30.0	14.0	18.0	10.0	6.0	4.0	-	2.0	-	6.0	10.0	56.0
その他	29	89.7	3.4	3.4	-	-	3.4	-	-	-	-	-	6.9

※n=30未満は参考値のため灰色

■経験年数

礼法を続けている年数（ＤＱ４）の結果では、「１年未満」（25.0%）の回答比率が最も高く、次いで「１～３年未満」（23.4%）、「３～５年未満」（19.1%）と続いている。

経験年数（ＤＱ４）と習い始めたきっかけ（ＤＱ１）のクロス集計を行い関係性について分析する。まず、習い始めたきっかけとして回答比率が最も高かった「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（25.2%）を回答した者のうち、「20 年以上」（43.6%）が平均を大きく上回っているほか、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（18.4%）でも、「20 年以上」（29.1%）が平均を大きく上回っている。また、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（20.5%）と回答した者については、10 年以上の回答比率が平均を上回っている。

一方、３～10 年未満と回答した者の場合を見ると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」の回答比率は全体平均よりやや低い傾向にあり、他の項目（親族等が教えていた、友人・知人からの勧め、イベントでの体験、メディアを通じて知った）では全体平均よりやや高い回答比率となっている。

これらの傾向を見る限り、親族が礼法を習ったり教えていたりした場合、また、自分の趣味と関連して礼法を習い始めた場合には経験年数が長い者が多い傾向があるが、きっかけ自体が直接、経験年数に関係しているとは考えにくい。

礼法を続けている年数×礼法を習い始めたきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以上
- 全体-10pt以上

	n=	DQ1 礼法を習い始めたきっかけ								
		親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	趣味や教養として、礼法に興味関心があった	礼法に係る仕事や職業に興味関心があった	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	その他
全 体	512	25.2	18.4	23.0	19.3	10.2	18.6	10.9	20.5	2.9
1年未満	128	24.2	6.3	14.8	13.3	4.7	14.8	10.9	17.2	6.3
1～3年未満	120	19.2	18.3	30.8	20.0	6.7	14.2	10.8	12.5	2.5
3～5年未満	98	22.4	24.5	28.6	24.5	16.3	22.4	9.2	15.3	1.0
5～10年未満	61	26.2	24.6	26.2	23.0	16.4	31.1	11.5	19.7	1.6
10～20年未満	50	26.0	18.0	16.0	22.0	12.0	14.0	8.0	36.0	4.0
20年以上	55	43.6	29.1	18.2	16.4	10.9	20.0	16.4	41.8	-

次に経験年数（ＤＱ４）と習い始めた当初の習い方を選んだ理由（ＤＱ２補問）のクロス集計を行い関係性について分析する。習い方を選んだ理由として最も回答比率が高かった「通いやすい場所だった」（34.8%）を回答した者のうち、「５～10 年未満」（41.0%）、「３～５年未満」（40.8%）の回答比率が全体平均よりも高い傾向にある。また、「家族や友人等と一緒が良かった」（28.3%）を回答した者のうち、「20 年以上」（40.0%）、「10～20 年未満」（34.0%）の回答比率が全体平均よりも高い。このほか、「通いやすい時間帯だった」（13.1%）の項目では、「20 年以上」（27.3%）、「５～10 年未満」（26.2%）が大きく全体平均を上回っている。

礼法を続けている年数×当初の習い方を選んだ理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ2補問 その方法を選んだ理由									
		家族や友人等と一緒が良かった	通いやすい場所だった	費用が手頃だった	道具等が借りられた	通いやすい時間帯だった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	本格的に習ってみたかった	手軽に習ってみたかった	その他	特に理由はない、わからない
全 体	512	28.3	34.8	18.4	10.9	13.1	12.1	11.5	14.6	2.0	15.2
1年未満	128	32.8	24.2	7.8	4.7	4.7	5.5	4.7	13.3	2.3	21.1
1～3年未満	120	30.0	38.3	21.7	8.3	12.5	11.7	9.2	14.2	2.5	10.0
3～5年未満	98	19.4	40.8	21.4	18.4	10.2	14.3	18.4	11.2	1.0	11.2
5～10年未満	61	14.8	41.0	27.9	18.0	26.2	18.0	14.8	13.1	3.3	14.8
10～20年未満	50	34.0	34.0	16.0	10.0	10.0	18.0	16.0	20.0	2.0	14.0
20年以上	55	40.0	34.5	21.8	10.9	27.3	12.7	12.7	21.8	-	21.8

経験年数（ＤＱ４）と礼法に関する興味関心や魅力（ＤＱ８）のクロス集計を行い関係性について分析する。興味関心や魅力として最も回答比率が高かった「伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる」(51.8%）を回答した者の中では、「20 年以上」(65.5%）の経験年数の者が最も回答比率が高い。逆に、回答比率があまり高くなかった「礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる」(20.9%)、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」(17.4%）を回答した者の中でも、経験年数が５年以上の者の回答比率が全体平均よりも高いことから、経験年数が長い回答者ほど、礼法の意義や目的の面を興味関心や魅力として捉えている傾向にあることがうかがえる。

礼法を続けている年数×礼法に関する興味関心や魅力

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	DQ8 礼法に関する興味関心や魅力							
		伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる	相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作	礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等	集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる	礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体	512	51.8	39.3	26.6	25.8	20.9	17.4	0.6	11.7
1年未満	128	52.3	24.2	14.8	11.7	11.7	10.9	-	19.5
1～3年未満	120	55.8	37.5	19.2	25.8	18.3	12.5	0.8	10.0
3～5年未満	98	42.9	46.9	36.7	28.6	15.3	11.2	1.0	5.1
5～10年未満	61	45.9	57.4	44.3	42.6	29.5	26.2	-	4.9
10～20年未満	50	50.0	40.0	24.0	30.0	34.0	28.0	2.0	12.0
20年以上	55	65.5	43.6	34.5	30.9	36.4	34.5	-	16.4

上記のクロス集計の結果から、礼法の参加体験ありと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

１） 習い始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

メディアを通じて礼法に興味関心を持った者や、親族が礼法を教えていたり習っていたりしたことをきっかけとして礼法を習い始めた者の継続率が高い傾向にあり、このうち、親族が礼法と関わりを持っていたと回答した者は、自身が礼法の指導者や教授者として活動している率が全体平均より高い傾向にある。

一方で、趣味や教養として興味関心を持った者の継続率は低い傾向が見えるが、興味を失って辞めたという回答比率は低く、習う場所がなくなったり、あるいは目標を達成したりして辞めたりといった、継続していない理由や事情があることが見えてくる。

２）活動内容と継続している状況や年数から見える傾向と特徴

カルチャーセンターで礼法を受講している者や、指導者・教授者として活動している者の経験年数が高い傾向にあり、カルチャーセンターで受講している者は１年～５年未満、指導者・教授者は 10 年以上の回答比率が高い傾向にある。一方で、教室や稽古場で習っている者の継続率は全体平均を上回っているものの、１年～５年未満の回答比率が全体平均より低く、５年以上の回答比率が全体平均より高くなっている。

カルチャーセンターで受講する者は週２～３回程度、指導者・教授者の場合は月数回もしくは毎日活動するという回答比率が高く、各活動内容による頻度の違いが見られる。また、月額の費用については、カルチャーセンターで受講している者や指導者・教授者として活動している者は月額 5,000 円以上を払っている傾向にあり、礼法を習う際にどの程度の費用が掛かるかの傾向が見える。

３）経験年数と習い始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と習い始めたきっかけとの関係を見た場合、親族等が礼法を習っていたあるいは教えていたと回答した者では 20 年以上、自分の趣味と関係して礼法を習い始めた者で 10 年以上、と回答する比率が高い傾向にあるが、習い始めたきっかけが経験年数の長さに関係するとは言い難い。当初の習い方を選んだ理由については、経験年数 20 年以上の者で、家族や友人と一緒に習う、通いやすい時間帯の２項目について回答比率が高い傾向にあるほか、３年以上 10 年未満継続している者の場合、通いやすい時間帯をはじめ、場所や費用等についての回答比率もやや高い傾向にあり、習いやすい環境にあることで経験年数は上がりやすくなると考えられる。

経験年数と興味関心や魅力との関係を見た場合、経験年数が５年以上と回答している者は、礼法の意義や目的の面を興味関心や魅力として捉えている一方、経験年数が１年未満、１年～３年未満と回答した者は、生活の中で礼儀作法を生かすことに魅力や興味関心を持っている傾向が高い。

③分析結果のまとめ

礼法の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の礼法への活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、礼法の未経験者が圧倒的に多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、礼法に興味関心が持てなかった者がいる一方で、そもそも礼法を知らなかった者が多くいること、また、礼法を知っていたとしても、体験できる場がなかった、あるいは場を知らなった事情があり、参加体験には至らなかったことが明らかになった。

経験者の場合は親族等が礼法を習ったりしていた、あるいは、知人・友人から勧められた、自分の趣味との関わりがきっかけとなっている。参加体験者の場合は、学校や稽古場、文化施設等での体験イベントをきっかけとして体験をしており、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、礼法を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約６割は継続していない状況で、継続している者については若い世代ほど現在の継続率が高い傾向にある。一方で、継続していない者が続けられなかった事情からは、興味を失ったから辞めたという理由よりも、習う場所がなくなった、時間がなくなった等の事情があることが傾向として見え、回答者の環境が整えば再開する可能性があることも推察される。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、学校や職場等で体験機会を得たという回答比率が高い傾向にあり、礼法の指導者や教授者がこれらの場において、体験機会の醸成などを図っている事例もあることから、礼法を参加体験する大きなきっかけとして作用していることが分かる。また、参加体験者がこれまで礼法を習うに至らなかった理由や事情からは、参加体験をしても興味関心を持てなかった者もいる一方で、通いやすい場所や時間帯、習う内容の明示等がされていれば習いたいと考えている者がいることから、習う内容等の情報を明示するなどの工夫をすることで、習いに通いたい人に機会を提供できる可能性があることが分かる。

上記の結果から、礼法の経験者や参加体験者を増やしていく場合、学校や職場等での体験機会のみならず、礼法を体験できるイベントなどを広く行うと共に、これらの体験機会自体を広く周知していくことで、経験者や体験者を増やす可能性が広がるものと考えられる。また、習うことができる場所の周知をはじめ、習う内容や時間帯など、習いたいと考えている者に適切に情報を伝えていくことも有効な取組として考えられる。